

「養育家庭(ほっとファミリー)体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約4,000人います。このような子供たちを、実の親にかわり、家庭的な環境の下で育てているのが「里親」です。

都の里親制度は、「養育家庭」と「養子縁組里親」に大きく分かれています。とくに、養子縁組を目的としないで、子供を家族の一員として迎えていただく里親を「養育家庭」、又は「ほっとファミリー」という愛称で呼び、普及啓発につとめています。

そして、このような子供の状況とほっとファミリーを理解していただくため、都では各区市町村と協力し、養育家庭（ほっとファミリー）体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成22年度に開催された養育家庭（ほっとファミリー）体験発表会において、ほっとファミリーの方々に発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

初めて子供に出会ったときのことや交流中の出来事、委託後の子供の赤ちゃん返りや問題行動などへの対応など、子育てに奮闘している様子が描かれています。また、真実告知や実子との関係など、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういったご苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、ほっとファミリーをやっていて良かったというものや、子供から喜びや幸せをもらっているというものなど、ほっとファミリーとして経験した子育ての素晴らしさにも触れています。より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成23年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

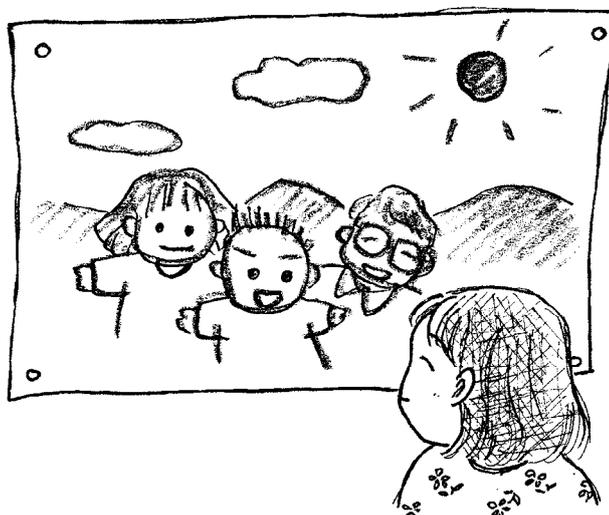
平 倉 秀 夫

目 次

1	我が家に来た宝物	2
2	すばらしい子育て	4
3	普通の生活が幸せ	6
4	自分を信じて～里親さんとの出会いで	8
5	たくさんのプレゼントをもらって	10
6	3人の里子を育ててー7年間の軌跡ー	12
7	神様の子供	14
8	里子と歩んできた10年	16
9	育ちあう子どもたち	18
10	Rちゃんに会えてよかった	20
11	里子との生活もいろいろとあるけど楽しい	22
12	Y君を迎えて～笑いと驚きの日常～	24
13	養育家庭で生活して	26
14	里親仲間や家族に支えられて	28
15	11年目の想い	30
16	甘えられてとても幸せ	32
17	大好きからの明日へ	34
18	Hちゃんが家族の一員となって	36
19	インタビュー	38

養育家庭(ほっとファミリー)

体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、19人のほっとファミリーの方たちの養育体験が赤裸々につづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1 我が家に来た宝物

【里母】

私たち夫婦には実子がおりません。結婚後も仕事を続け、それなりに楽しんでおりましたが、だんだん年を重ねていくうちにそういう機会も減っていき、これから先のことを考えた時に何か物足りなさを感じていました。そんな時、支部の里親の方の話を耳にしました。お話を伺ってから、2、3年たって、私もあきらめていた子育てにチャレンジしてみようと思うようになってきました。また、子育てを通じて自分自身も成長できるチャンスだと思いました。

現在、3歳の元気な男の子を迎えて1年が過ぎました。最初の出会いは、その半年前ぐらいで、アンパンマンのよだれかけをして、まだ赤ちゃんのあどけなさが残る、目のパッチリあいたとてもかわいい男の子でした。私たちの顔を見ると、保育士さんの胸に顔をうずめて大泣きです。それから、せっせと20回ぐらい通いましたが、私の顔を見ると必ず泣いてのお出迎え。私は子育ての経験はないし、子供に対する知識も全くなかったので、ただおろおろするばかりでした。今思えば、とにかく私は子供とどう接すればいいのか全くわかっていなかったもので、遊び方すらどうしたらいいのか戸惑いだらけでした。不安な気持ちは子供も同じだったのです。帰りの車中では、こんな私で大丈夫なのだろうか、ほんとうに育てられるのだろうか、いつも自問自答していました。それでも、会いに行く日は、今日は笑ってくれるかなとほのかな期待をして行くのですが、また泣きながら逃げられた…の繰り返しでした。帰り際、いつも職員の方に励まされたのを覚えています。それでもだんだん私のことを「ママ」と呼んでくれるようになりました。何か私も気恥ずかしい感じです。少しずつ受け入れてくれるようになってくれました。この子が大きくなっていく姿をどうしても見たいと思えてなくなりました。雪の降った日に、窓から手を出して初めての雪を触らせてあげました。「冷たいね、これが雪だよ」と教えると、「雪？」と返してくれました。その時の驚きとキラキラした目は今でも覚えています。その後も交流中は色々ありましたが、我が家に来てくれる日だけは泣かずにいてくれました。

いよいよ我が家での生活が始まりました。用意しておいたアンパンマンのおもちゃを見つけおとなしく遊んでいましたが、何となくお互い緊張感が漂っていました。たまたま近所で夏祭りをやっていたので、ほかの里親さんたちと合流し、H君初のお披露目です。こういう時本当にありがたいですね、やっぱり子供は子供同士が一番です。その日は泣いて駄々をこねたりすることもなく、寝てくれました。心底ほっとしました。ただ、それから何日かすると夜中に起き出す癖が出てきました。施設でも夜中に起きて2時間ぐらいは寝ないと聞いていたので、さてどうするか。最初は主人がビデオを見せたりして、つき合っていたのですが、ビデオを見せていても基本は眠いので、

あれでもない、これでもない、主人もご機嫌取りに相当大変だったようです。おやつまで食べさせて、そのうち疲れてまた寝るという感じです。それではよくないと思い、夜は寝るということで主人も私も家中を真っ暗にしてひたすら寝たふりです。H君は、私の寝ている周りをうろうろ。アンパンマンだ、バイキンマンだと言いながら動き回っていました。それが大体、2、3時間くらい続き、明け方寝るという感じです。ただ、H君は決して私たちを起こそうとしないで、泣いたり、大声を出したりもしませんでした。確かに私たちも眠れませんが、そういう意味ではそんなに大変ではなかったと思います。そんな日が何日かありましたが、だんだん減っていき、今では9～10時間は寝てくれます。もちろん夜中に起き出すこともありません。

2、3か月経つころには、しきりに「H君の家、ここ？」とよく尋ねてきました。その度にきちんと、「ママとお父さんとH君のお家ね」と言い聞かせました。とにかくよく動く子でじっとしているのは、アンパンマンのビデオを見ているか、寝ているか、おやつを食べている時だけです。おむつをかえたり、入浴後の体を拭くときなどは、ちょっとした間にすぐ逃げられてしまうのでこっちも必死です。みんなが座っている時も1人でどこかに行きそうになり、また私が抱っこしていても力が強くて逃げられてしまいます。賢いところもあるので、ゆっくり言って聞かせようとしても言う前にいなくなることもしばしば。追いかけるだけでも大変です。これからのことを思うとますます力が強くなってちょっと心配です。

最近ではよくソファの上で逆立ちしながらテレビを見ています。本当にパワー全開のH君です。H君がおとなしいと、つつい熱をはかってしまいます。家に来てから二度熱性けいれんを起こし、その時のことを思うと、本当に元気が一番だと思います。でも、つついいたずらをしているのを見ると、「こらっ！」と声を荒げてしまい、感情的になることもしばしばです。日々反省の繰り返しです。それでも少しずつ親の方も慣れてきたかなという感じです。

主人のお休みの日、最近ではお話も大分上手にできるようになって、3人で川の字になって寝ていると、「ママ、大好き。お父さん、大好き。おやすみなさい」と言ってくれました。うれしい限りです。今ではほんとうにH君の5年後、10年後がどうなっているか楽しみです。その頃には、実の親ではないことも認識できて、心の葛藤もあると思います。違う問題が出てきているかもしれません。でも、とにかく今は精一杯の愛情を注いで今しかできないことを家族としてやっていきたいと思っています。こんな新米ママだけど、わんぱくだけど、「ママの作るご飯はおいしいね」と褒めてくれる優しい男の子に育ってくれています。ありがたいことです。成長を楽しみにしています。

2-1 かわいらしい子育て

【里父】

私自身、物心がついた時には施設にいました。15歳になって施設を出て、おじの家から高校に行きました。大学を出て就職した後、児童養護施設のボランティアで子供たちとかかわっていて、色々なことを知らないということと、愛情に飢えているということが、私自身もそうでしたけれども、とても感じました。また、結婚をし、実子を育てましたが、子育てしている中で、自分の過去の育ちに目を向けざるを得なくて、「自分はこんなに可愛がられなかった」って実子に対して嫉妬してしまったのです。そんなこともあり、2人目は産まないで里親として子供を育てたいと思いました。

今受託している子は、紹介をされた当時2歳7か月でした。数か月の交流を経て、初めて家に連れて行こうと電車に乗ったところ、電車で今まで乗ったことがなかった里子は電車が動いた途端に泣き出したり、我が家のドアを開けて中にいた猫を見た途端「猫ちゃん怖い、乳児院帰る」って言って泣き出したりと大変でした。ですが、2、3回お泊りを繰り返して、長期外泊、そして正式な委託となりました。

最初の頃は、すごくおとなしくて、何でも食べて、すぐ寝てしまうようないい子でした。ですが、だんだんと慣れてくるに従って、肉とかハンバーグとかポテト、そういったもの以外は一切食べなくなり、野菜を食べさせるのに本当に苦労しました。また、極端にみかんを気に入った里子のために10キロのみかん箱のみかんのなくなるまで、半年間ずーっと買い続けたこともありました。

そのころ、そういった過食に関する知識も全くなく、叱ると固まって、もうにらみつけて動かなくなるのです。それでいながら、近所の人には、すぐにそばに行ってべたべたするのです。でもこっちにはそういうべたべたはないのです。私はもう悔しくて情けなくて腹が立ってぼろぼろ涙が出てくることもありました。実子はかわいがればかわいがるほど、こうぴたーっと愛着ができて、関係ができてくるのに、里子の場合には全然当てはまらないと思い悩むこともありました。それでもそのたびに抱っこしたりしかったりしているうちに、いつしか私のことをお父さんと呼ぶようになりました。3歳2、3か月になって、家に来てから半年ぐらいたったときに、お風呂の中で「お父さん、何で乳児院から早く迎えに来なかったの」って私に向かって言いました。「迎えに行くの、遅くなってごめんね」って、それしか言えませんでした。

それで、家に来て3年ぐらいの時、「お父さん、僕、幾つまでこの家にいられるの？」って聞いてきました。それで、「いや、何歳までいてもいいよ」って言ったんですけど、「決まっているんでしょ」って。隠してもしようがないし、里親子であることは、オープンにしているので「18歳までいられるよ。」という話をしたところ、それっきり言わなくなったのですが、後日談がありまして、実子とケンカをして、普段は優しい

実子が「おまえなんか出て行け！」って叫んだんです。そしたら、下は、「出てかない。お父さんが18までいていいって言った！」って。そうすると、2人で「出て行け！」「出て行かない！」って言い出して、それを聞いていた妻が怒って、「うるさい！それなら私が出て行く！」って、財布をつかんで家を飛び出しちゃったんです。妻が1時間ぐらいして戻ってきたら、2人でショボーンとした様子でゲームを仲よくやっていたというオチなのですけれど、それを聞いたとき私は、家の子というふうに意識を持ってくれたのかなとちょっとうれしかったです。

それでもいろいろ問題は起きます。学校でトラブルを起こして、そのたびに学校に呼び出されるようなこともいっぱいありましたが、小学校3年生ぐらいの時に、里親の集まりで、他の里親家庭の子供を「ホームレス！」って、罵ったのです。私は、「そんな変なこと言うな」って怒ったのですが、変だなと思って、本人に、「もしかして学校でホームレスって言われたの？」って聞いたら黙っているんですけど、何となくわかって、学校でクラスの子に、親が育てられなくて、他のお家で育てている子供もいること、そういった子たちにホームレスと言っていじめるのはよくないんじゃないかという話をしました。電話がかかってきて、「ほんとうにごめんなさい」と謝ってきた家もありました。それはほんとうによかったなと思います。

それで、今は、中学3年生になりました。ようやくここまでたどり着いています。とにかく勉強ができないので、この夏休みは、塾に行かせて、本人も「死んじゃう」と言いながら、頑張っってちゃんと休まずに行きましたから、何とか高校に行けるかなというところです。

養育家庭は本当に大変だけど、でも、きちんと知識を持って、自分ひとりで引き受けないで、同じ里親さんとか、地域の人、そして児童相談所とかにきちんと話をして、相談をして、自分ひとりで抱え込まなければ、どんな問題でも乗り越えられると、この12年間を通して、思いました。私は実子1人と里子1人、たった2人しか育てていませんけれども、それでもその2人を本当に一生懸命育てて、いろいろありながらも親子になって、そしていろいろありながらも社会に自立していけるようになれば、それが私の功德というのか、人生の一つの目標なのかなと思います。子供を育てることは、やはり一番すばらしいことなのではないかなと、このごろ思うようになりました。

自立する18歳までは3年ですが、それから先もいろいろつき合ってできたら結婚式にも出たいとか、子供ができたからおじいちゃん、おばあちゃんとして抱っこしたいとか、そういうふうに思っって日々過ごしています。

◎ 普通的生活が幸せ

【里父】

現在、養育家庭を始めて、1年1か月になります。里子は6歳、小学1年の女の子です。3月生まれのためか、クラスの中では小さい方です。

私ども夫婦が結婚した当時、妻は児童養護施設に勤めていました。一方、私は児童福祉を学んだこともなく、里子が来るまで子育ての経験もありませんでした。そのため、妻の当時の経験は現在私が養育家庭をする上で、大きな助けとなっています。ただ、自分も養育に積極的にかかわり、できる範囲で学んでいかなければならないと思っています。しかし、仕事と子育てと家事分担をこなすことは、結構大変です。その点は、音楽教室で教え、声楽家としてコンサート前はその準備で昼も夜も忙しい妻と同じだと思いますので、2人で都合を合わせながら仕事、子育て、家事をしています。

さて、私ども夫婦は子供が与えられませんでしたので、以前から養育家庭を希望していました。養育家庭を始めて、ありがたかったことは私どもの親が、そして友人が里子を受け入れてくれたことです。親、兄弟、親戚、友人の理解が養育家庭を続けていく上で、大きな支えになっていると思います。また、私どもが養子縁組里親ではなく、養育家庭を希望したのはその子の持って生まれた性格がどういうものかわからないうちに、その子と養子縁組してしまうことへの不安があったからです。慎重すぎると思われるかもしれませんが、私どもにとってそれは大きな不安でした。そして養育家庭は、養子縁組里親と比べて児童相談所と連絡を取り、サポートをしてもらいながら養育できるのではないかと考えたからです。さらには、その子の養育を続けることがどうしても困難な場合、残念ですが、養育家庭をやめることができると思ったからです。現在、児童相談所は抱えているケースが多く、1件の養育家庭にかかわる時間は十分にはないようです。それでも、私は養育家庭を健全に続ける上で、周りの人たち、地域、そして特に児童相談所の助けは欠かせないと思っています。

ここで、養育家庭を始めたころのお話をさせていただきます。昨年2月、東京都の養育家庭登録前研修を受講し、地元の児童相談所での面接を受け、登録しました。里子と最初に会ったのは、研修を終えて5か月ほどした7月初めでした。養育家庭によっては、最初に紹介されるまでもっと時間がかかったり、最終的に養育までいかない家庭も多いと聞いています。こればかりは、結婚と同じように縁かなと思っています。何度かの面会を経て、家に泊まってもらい、そして、8月中旬過ぎに引き取りました。一時保護所まで車で1時間半以上かかり、仕事の都合をつけ、面会すること。また、外泊のために迎えに行って家に帰り、翌日や翌々日に送って行き、また家まで帰ってくるのは案外大変でした。しかし、次第に打ち解けていき、保護所に戻るときには私が運転し、妻と里子は後ろの席で遊ぶのも里子にとって楽しい時間だったようです。

引き取ってすぐの頃、通称で私どもと同じ、名字も名乗れるけどどうするかと尋ねました。すると名字は今のままでよいというので、幼稚園でも小学校でもそのまま名乗っています。また、私どもへの呼び方も本人の意思を尊重しました。「お父さん、お母さん」と呼んでもいいよと申しましたが、「おじちゃん、おばちゃん」と呼ぶと言いましたので、そうしていました。気持ちが通じれば、呼び方はどうでもよいと思っていました。ところが1か月ほど前、微妙な子供の変化を読み取った妻が、「父ちゃん、母ちゃん」と呼んでもいいよというので、私どもをそう呼ぶようになりました。里子の思いが少しずつ変わってきているのかなと思いました。実際、父ちゃん、母ちゃんと呼び、呼ばれることによって、それまでより距離が縮まったように感じています。

里子は、妻と女同士ということもあり、何かにつけ父ちゃんはいいからと言って、妻と2人でやりたがります。最初は意地悪なことを言うなと思っていましたが、家庭的な背景から幼いながら傷ついているためだと思っています。そして、そのたびに、この家では3人でいつも仲良く暮らすのだからと言って、対応しています。

実際に養育家庭を始めて生活が一変し、子供中心の生活になりました。楽しいことばかりではありませんが、家に子供がいて、妻と2人有的时候以上に喜怒哀楽があり、充実した毎日です。学校行事もできるだけ参加しています。小学校の校舎に入るたびに、自分の小学生のころを懐かしく思い出しています。そのように、里子を迎えてからの日々は折に触れ、自分が幼いころを思い出させてくれる日々です。昔、朝起きて、一緒に朝食を食べ、父は仕事に行き、私と弟は学校へ行き、帰ってくれば母がいて、夜父が帰ってくるのを3人で待って、一緒にお風呂に入り、夕食を食べる。そんな普通の1日1日を、今とても愛おしく思っています。そして今は、親の立場で同じ経験をさせてもらっています。忙しさに追われる毎日ですが、就寝前に一緒にお祈りをするとき、里子がいつも「父ちゃんの仕事が早く終わりますように」と祈ってくれます。それは私にとって、とてもうれしいことです。妻と里子と私の3人の現在の生活、この日々こそ自分にとってこれに勝るものはないと思っています。養育家庭をさせていただいていることを、感謝しています。

里子は厳しくしかられると、「私のこと嫌い？」と妻に聞きます。そのような時妻は、「いけないことをすることは直さなければならないけど、あなたのことはいつでも大好きだよ」と答えています。私も里子がどんな状態にあっても、いつも変わることなくその存在を受け入れていきたいと思っています。里子は家に来て約1年になりますが、夕食が終わると、妻のひざの上で甘えるのは家に来た当初から変わりません。私はもう1年生なのだからと思いますし、重くなっていくので妻はつらいと思います。しかし、こうして思う存分甘えることで、幼い心の傷が少しでも癒されていけばと、思っています。

4 自分を信じて 里親さんとの出会い

【里子】

私は両親と弟2人の5人で11歳まで暮らしました。父が酒乱で、暴力とかいろいろなことに母が耐えかねて、協議離婚しました。父はとても子供が好きなので、3人とも手放さないということで、私たちは父方に引き取られました。しかし父が体の方にもいろいろな病気がありまして、私は15歳で養育家庭さんに、弟たち2人は同じ施設でお世話になることになりました。

その時、私は中学3年生の夏だったのですが、そのまま卒業まで同じ中学校に通学したいという願いがかない、学校に一番近い里親さんのところでお世話になることになりました。私は中学校卒業後に働く覚悟をしておりましたので、卒業するまでの半年間、里親さんのところにご厄介になるつもりでおりました。しかし里親さんは熱心に高校進学を勧めてくださいました。私は受験勉強も何もしていなかったのではなかなか決心がつきませんでした。内心は高校進学をしたいという気持ちがありましたので、最終的に受験をすることにいたしました。もうほんといつに焼き刃の勉強をいたしまして、おかげさまで私立の女子校に入ることができました。

里親さんには実子がいなくて、私が初めての子供ということで、いろいろ、もうとにかく私のことを真剣に考えて、私の話も一生懸命聞いてくれて、それで心が満たされました。すぐに何でも話せる関係になり、自分のためだけに話を聞いてくれたり、真剣に怒ってくれたり、アドバイスしてくれたりということって、何ていうのでしょうか、本当に心が満たされるのだと実感しました。そして私が高校2年の時に、4歳年下の女の子が里子として来たのです。その女の子も1人だったのですぐ仲良くなって、本当の姉妹のように育ちました。今でもしょっちゅう会っているぐらいです。

高校卒業後に私は美容師になることを希望しておりましたが、偶然、里親さんの知人が大手の美容室を経営していらして、その方の紹介で入社させていただくことができました。その美容室の寮で生活を始め、通信教育で免許を取りました。そこでお世話になっている時には、実の弟たちと3人で暮らす経験もしました。私は子供時代に家庭にいろいろな問題があったので、結婚して子育てをして、普通の家庭を作るといのが望みでした。そのことを理解してくださる方の紹介で、30歳の時に結婚しました。そして子供にも恵まれまして、31歳で女の子、33歳で男の子を出産しました。その子供たちも、もう大学生と高校生になります。

今は、民生・児童委員のお仕事をさせていただいたり、週に1～2回、小学校の放課後に子供を預かったりと、忙しく暮らしております。

里親さんのことに戻りますが、私の時代も、里子は18歳までは里親さんのところにいられるけれど、その後はいられませんでした。しかし私はたまたま美容室の寮に

入ったので、里親さんと生活を共にしませんでした。ずっとおつき合いを続けています。私が18歳で寮に入った後、妹が1人で残り、その後に3姉妹を引き受け、短期で来た男の子も入れて、里親さんは合計で、女の子5人と男の子1人を養育されました。

里父は6年前に86歳で他界しました。その後、里母は1人で頑張り、私は自転車で20分ぐらいの距離に住んで、いつでも駆けつけられるようにしていたのですが、今から1年半ぐらい前に歩けなくなってしまいました。他にもいろいろ病気もあり痴呆の症状もありまして、里母のご兄弟の方とか、ご親戚の方とか、里父の亡くなった実家の方々とかにも相談させていただいて、ホームに入らせていただきました。私はホームにちょこちょこ会いに行きます。昨日も、髪の毛をカットしに顔を出して、「体調はどう？」なんていう感じで話をしました。昔はすごくおしゃべりな人だったのですが、今はおしゃべりができなくなり、とてもかわいそうだなと思いますが、私はニコニコ、ケロツとして、昔と変わらない感じで会ってあげるのがいいのかな、と思っています。

私は夢はかなうと思っています。仕事も大好きなんです。普通の家庭を築くのが、今でも一番の望みです。また、どんな苦しいことでも乗り越えられるというふうに信じています。自分の中で不安になったり、苦しくなったりするようなことがあっても、乗り越えられるはずだと思って、自己暗示をかけています。若い頃は、親と同じような人生になるのじゃないかと不安になる時もあったのですが、自分に正直に生き、自分を信じ続けて、今の幸せに至りました。

いろんな方々との出会いで、どんな人にも悩みがあるのだということがわかりましたが、今後も自分を信じて生きていきたいと思っています。



5 たくさんのプレゼントをもらって

【里母】

娘と息子が、まだ幼稚園だった頃に親しくしていた方が里親をされていました。子ども達同士遊びに行ったり、泊まりに来たりと、仲良くしている姿を見て、いつか自分もできたらいいなと思うようになりましたが、私にはできない、自分の子どもと里子を同じように育てていくのは、本当に大変だろうとも考えていました。当時私は、重度の心身障害児の通う保育訓練施設で働いていました。その子ども達の笑顔がかわいく、成長を見ながらすごくエネルギーを貰っていたのですが、施設が閉鎖することになってしまい、もう少し子どもと関わっていたいなと、寂しく思うことがありました。また飢餓の人たちを支援しているNGOの団体に参加し、娘とインドやバングラデシュに行く機会があり、貧しい子ども達と出会い、自分には何ができるんだろうと考えさせられ、帰ってからやはり里親を始めてみようという気持ちが強くなりました。それには家族全員が全面的に協力してやらないと絶対無理だと思っていたので、まず子供たちに賛成して貰い、その後主人に話をしました。主人は割りと子煩悩な方で、仕事が大変になってきたりしていましたが、「子ども達が良ければいい」と賛成してくれました。

申込みをして、研修に主人と参加し、審査を受け、何とか登録ができ、早く始めたくて、まだかまだかと待っていたら、5歳のK君の紹介が意外と早くありました。私の希望では、やっぱり2歳以下でないと、その子の個性があまりにもできてしまっているんじゃないかという不安がありました。娘に「お母さん、選んじゃだめだよ」と言われ、「そうかもしれないな、向こうは選べないんだものな」と、とにかく詳しいお話を聞くことにしました。家族そろって生い立ちを聞き、目がクリッとした、すごくかわいい写真を見せていただきました。昔から弟が欲しいと言っていた息子が「かわいいからいいんじゃない？」と言って、とにかく会ってみようということになり施設訪問をし、交流が始まりました。初めは顔を見ないで話していたK君も、慣れてくると、言いたいことをはきはき言うようになり、買い物に行っても、「あれ買って」「これ買って」と遠慮なく言うので、こちらも、「それはだめだね」「だめだめ」と、何でも言えるような間柄になれるかなという感じがしました。泊まりに来ると、主人のお酒をどこからか出してきて勝手に混ぜたり、何も聞かないで引き出しの中身を次々に出してきて、もう自分の家のようにやることに何回も驚かされたりはしましたが、長い交流をしていくうちに、本当にやっていけるんじゃないかと思えるようになりました。最初に会ったのが2月で、夏休みの頃には委託となりました。小学校に上がる前に、地域に慣れて友達ができた方が良かったらというのと、私がパートで働いていたこともあり、保育園に通うことに決めました。園長先生にも事前にお

会いし、「全員でバックアップするので安心して入園させて下さい」と言われ、とても心強く感じましたが、我が家にやって来て、同時に保育園入園で、K君はあまり気乗りしていないようでした。施設では幼稚園に通っていて、友達は向こうにいて考えているようで、「行きたくない」「早く迎えに来て」と言ったりはしましたが、担任の先生が良く見守ってくださったこともあって、くじけそうな時も大変励まされました。ただ、主人のことはすぐに「お父さん」と言ったのに、「お母さん」とはなかなか言うてはくれず、このままずっと「おばさん」のままなんだろうかと不安な気持ちになりました。相性が悪いのかもしれないとか、ここでぎゅっと抱きしめてあげればいいんだけど、何かそうできない自分がいて、里親を始めたということの後悔していました。K君が眠ってから、その横で涙を流すという日々もありましたが、家族や周りの人に相談したりしているうちに、いつの間にか私の心が少しずつ変わってきていることに気づき、K君も保育園や家にも慣れて心が落ち着いてきたようで、何とかやっけていけるかなと思えるようになっていきました。5歳まで施設で育ち、家族を知らなかったのに、そのことを受け入れてあげられる心の広さがなかったのです。保育園では毎日元気に友達と遊ぶようになり、運動会ではソーラン節を伸び伸びと踊って、K君のたくましさに関心させられました。運よく保育園から3人のクラスメートが同じ小学校に入ると聞き、K君はとても楽しみで仕方がないようでした。毎日早く起きて、飛び出していく日々が続き、登校班の友達をいつも連れて帰ってきていました。

その後、3年生になって急に周りの子ども達が大人っぽくなり、K君は少し相手にされなくなってきたようなところが出てきて、学校から帰ってきてても元気がないように見えました。それを見ていて私の方が心配してしまい、K君にも良い影響を与えなかったかもしれません。その頃、私の母が同居することになり、急に今まで何でも相談していた娘と息子が家を出ることになって、私はショックで気弱になってしまい、またまたK君を育てていくことに自信がなくなってしまったのです。でも児童相談所の方やベテランの里親さんにお話を聞いていただいたり、愛着障害についての講演や本を読んだりしていくうちに、長い時間はかかりましたけれども、K君のことを理解し、受け入れていくことができるようになりました。K君も、友達と遊ぶために外に出て一生懸命でした。今もクラスメートの関係は色々心配がありますが、スイミングや習字に通い、児童館や近所の友達と楽しく遊んでいることができますから、これからもK君は一生懸命楽しんでいくことができると思えるようになってきました。個性を尊重し、今後、どのように成長していくのか、楽しみに日々過ごしていこうと思います。K君の周りにはいるかわいい子ども達とたくさん友達になり、また、その若いお母さん方とも仲良くなれて、たくさんプレゼントを貰って本当に感謝しています。

【里母】

里親として登録されてから7年あまりが経ちました。養育家庭をやってみようと思った動機ですが、50歳という大きな区切りの年を迎えたとき、いろいろと考えました。そのとき、私の友人の何人かは亡くなっており、人生の意味と言ってはなんですが、悔いのない一生を送りたいと思いました。そんな折、何かの広報紙で養育家庭の体験発表会があるのを知り、聞きに行きました。大変心温まるお話を聞かせてもらい、ぜひやってみたいと思いましたが、ちょっとうちでは無理かなと思いました。それでもそのときのアンケート用紙に、また何かあったら参加したいと書いたと思います。そして何か月か後に、里親さんとの座談会があるので参加しませんかというお手紙が来ました。そういうお話を聞きに行ったらだんだんその気になってきました。

そして、やっと申し込み、登録されてから5か月を過ぎたころ、2歳半過ぎの男の子を紹介されました。ちょっとぜんそくぎみの子で、ママの生活の基盤ができるまで、小学校に行くようになるまで預かっていただけませんかというお話でした。その子は乳児院で生活していたので、会いに行きました。そして交流するようになり、なるべく頻繁に来てほしいということで、週に一、二回の割合で面会に行きました。そのうちだんだんなれてきて、自宅でお泊りするということになりました。ところが、まだ安心感がないのか「ねんねしない、ねんねしない」と言って隅のほうに座って横になろうとします。仕方がないので抱っこしたりおんぶしたりしました。大分頑張っていました。そのうちに疲れて倒れるように眠りました。

小学校へ通うようになるまでということでお預かりしていたので、たまにママと面会がありました。ママは若く、自分も好きなようで、よくディズニーランドに連れて行ってくれました。面会した後はよいこともありました。すごく怒りっぽくなって、そばに来ないこともありました。子供の心の中でも葛藤があったのだと思います。そうこうしているうちに、ママと連絡がとれなくなりました。4歳ぐらいのころのことだと思います。昼間、遊んでいるときはそうでもないのですが、夜寝るときに、その4歳の子が親のことを心配するんですね「ママ、大丈夫かな」って。私たちにとってもつらい期間でした。そんなとき、その子の頭をいつまでもなでていました。ずっと寄り添っていてあげたいと思いました。

おおらかなところがあってよいのですが、あまり計画的に物事をできないというママは、1年以上たって突然児童相談所に電話をかけてきて、子供に会いたいと言ってきたようです。それでまた面会が始まったのですが、そのときには妊娠していて、その後、うちに来ていた子の弟が生まれました。ママは調子のよいときはそうでもないのですが、調子の悪いときにはうちに来ていた子を引き取りたがりました。生まれた

ばかりの子もまだ小さいので、もう少し落ち着いてからということで、小学校はうちの近くに入學しました。ママもその子をかわいがってはいるのですが、何かちょっと違うようなところがあって、夏、ママのところにお泊りに行って帰ってきたときには、頭をつるつるにしていました。また、1年生の夏休みの終わりには、真っ黄っ黄に染められて帰ってきました。学校が始まる前にまた黒く染めれば良いという考えみたいでした。下の子はまだ赤ちゃんだったのですが、前髪を染めたようです。ママも染めているので、家族の連帯感を出したかったのでしょうか。

1年生の冬休みごろからは定期的に面会があり、大分ママも落ち着いてきたようでした。そのうちにママのところ暮らしということになりました。月日はたち、3月の春休みの半ば、ママや福祉司さん、母子寮の寮長さん、うちの家族と児童相談所で会って、そのままあっけなく行ってしまいました。2歳半過ぎからうちに来て、小学校1年生が終わるまでのほんとかわいい盛りの時期を育てさせてもらって、時々はやんちゃで目くじらを立てたこともありましたが、ほんとうによい思い出です。ママのところに戻ってしまった直後は、心に何ともしれない大きな穴があいて茫然としていた日々でしたが、少しずつ少しずつ時間とともに平穏な生活に戻ってきました。

そうこうして1年半過ぎの月日がたった、去年の11月、その当時6歳半と2歳半の、現在一緒に暮らしている姉妹をお預かりしました。どうしても下の妹の方を抱っこしたりすることが多いですが、お姉ちゃんが「妹ばかり抱っこしないで、たまには私も抱っこして」と言ってきました。まだまだ甘えたい年ごろですね。抱っこしたら「わーい」と大喜びでした。そう言えるということは、いいことだと思っています。

妹もお姉ちゃんを見習って絵を描いたり、おもちゃをたくさん出して、姉と2人で楽しそうに遊んでいます。アンパンマンの顔が上手にかけます。寝るときは伸び伸びと寝ています。おおらかな感じですよ。お話も大分上手になってきて、私のことを「おばちゃんが好きなの」とよく言ってくれます。とてもかわいいです。小さい子がいるとやる事が多くて一日が過ぎるのがとても早いです。大きな声を上げて怒ったりすることも多いのですが、楽しくて気持ちに張りが出てきます。年を忘れて頑張れます。

また、里親の仲間の人たちとお話をするのは楽しい、心が安らぐ時間です。「うちの子ね」と聞いてもらったり「何々君どう？」と聞いたり、いいコミュニケーションをとっています。里親をやっているからこそ、里親関係の本も読んだりするのですが、ほんとうにすばらしい感動を感じるものもあります。

うちではあまり特別なことはしてあげられないけれど、私たちの生活のペースの中で、困っている子供たちとともに楽しく暮らせたらいいなと思っています。子供を育てているつもりが、親心を育てられています。

ア 仲様の予供

【里母】

現在中1の男の子を受託しています。受託から10年が過ぎました。養育家庭登録は今から13年ほど前でした。保育士の仕事をしていた私は、特に大きなきっかけもなく、登録をすれば後々何か私にできることがあるのではないかと、というくらいの気持ちでした。

登録の2、3年後、2歳の男の子を紹介したいと連絡がありました。最初は泣かれたり警戒されたりするかもしれないと言われていましたが、全くそんなことはなく、とてもスムーズに子供の方から歓迎してくれました。最初の交流では、乳児院のおもちゃを次々出して、言葉はまだつたない感じながら「これはこうして遊ぶんだよ」と見せてくれました。また、私と会うのをとても期待していたということを乳児院の職員の方から聞いて、胸が熱くなりました。相性がよかったこともあってか一月程度で委託が決まりました。

「初めはとても良い子だが、その後赤ちゃん返りがあるかもしれない」と聞かされてきました。ところが、うちの場合は、初めからそれほど良い子ではなく、ご飯を残したり、寝起きにぐずったりということは受託直後からありました。本人に、楽天的というかポジティブというかそういう部分があったのかなと思います。

3歳になって幼稚園に通い始めました。1学年1クラス、全体でも100人足らずの小さな幼稚園でした。発達に遅れのあるお子さんや病気を持ったお子さんも受け入れている園だったので、先生方の配慮も行き届き、保護者も大らかでとても居心地がよく、子供も保護者の私ものびのびと3年間を過ごしました。

大勢の中でも臆せず、自分も楽しくやれる、という対人関係が非常に上手な子で、私がうらやましく感じるほどなのですが、小学校に入ってから友達と楽しく過ごしていました。本名にするか通称を使うかについては、それぞれメリット、デメリットがあり、本当にそのお子さんと周囲の状況によって違うと思うのですが、うちの場合には、当初から「本名のままでいいな」と思っていました。本名で通すリスクについても、この子なら受け止められるだろうという強さを感じたからです。学校でもいつも4月の保護者会のときに養育家庭をやっているという説明をして、親御さんたちもオープンにすることで納得されて、特にトラブルもありませんでした。ただ、地区子供会の役員になった時に、学校本部からの役員紹介の配布資料の中で、私の苗字を子供の苗字に合わせてほしいと言われたことがあり、非常に残念でした。子供はその配布資料を見て怒っていました。

学校とのかかわりという中で、もうひとつ残念な思いをしたことがありました。ある先生が、以前にも社会的養護を受けているお子さんを担任として持たれた経験があったらしいのですが、その先生からトラブルの原因が何故かいつもうちの子だと言わ

れてしまって、とうとう子供が精神的ダメージで2日間休むという、これまでになかったことが起こりました。その時に先生が私に対して「施設出身児童は嘘をつくことが多いのではないかとおっしゃって、もう私はびっくりしてしまって、校長先生を交えてその先生とお話をしました。その後先生からは謝罪があり、トラブルはそれだけでしたが、残念な思い出となりました。

子供は、自分のルーツについては、キリスト教の幼稚園に通っていたせいか、いつしか自分は神様から生まれたと信じるようになっていました。私が私のお腹から生まれたのではないという話をし、幼稚園でほかのお母さんに下のお子さんが生まれたという状況も見ていたからだと思いますが、では、自分はどこから来たのだろう、と思って考えた末にどうも神様に行き着いたようでした。小学4年生の夏、予防接種の時に母子手帳の実の母親の名前を見て、「この名前はなあに？」とたずねてきたので、本当の話をしたのですがその時までは神様の子供だと思っていたみたいでした。私から生まれたのではないということは納得していたので本人にとっては全くショックはなく、とてもスムーズな真実告知でした。先日も幼なじみの友達に「おまえって昔、神様から生まれたって言ってたよな」と言われて「おれって友達にそんなこと言っていたなんて、恥ずかしい」と笑いながら話していました。

友達関係にはとても恵まれ、うちの前が子供たちの溜まり場になっていて、ご近所のお年寄りから「子供の声はいいね」なんて言っていただいて、とても暖かく見守っていただいています。どういうわけか、うちには子供がたまりやすいということがありましたが、よく考えてみると子供が友達を呼ぶのが好きだからだとわかりました。そして、子供たちの関係は、家庭の事情などは関係なく本人同士の関係だけで楽しくつきあっていくことができ、大人のような偏見は存在しないのです。大人の私たちも見習いたいところだと思っていますし、子供のこういう力が社会を変えていくのかな、とも感じています。

今、中学校では吹奏楽部に所属し、毎日遅くまで練習をして帰ってきます。思春期ではありますが、いらいらしたり自己嫌悪に陥ったりするくらいで、土台が崩れることもなく、わりとすぐ立ち直って前向きに過ごしています。進学についても先輩の話などを聞いてあこがれの高校なども出てきているようです。私のほうも、子供の将来に向けて、奨学金の制度なども調べてみようと思いはじめるところです。18歳までの委託が想定されていますので、自立後のことも子供と一緒に少しずつイメージしてみたいと考えています。これからも、社会的養護を受ける子供たちが、養育家庭などのその子にとって一番幸せな場所で生きられることを願って、養育家庭を続けていこうと思っています。そして将来、養育家庭でやってきたことをなにか社会にフィードバックできたらいいなあと思っています。

○ 里子と歩んできた10年

【里母】

私たちは里親になってちょうど10年目になります。15歳の男子の里子、夫、93歳の在宅介護中の夫の母の4人で生活をしております。

養育家庭になったきっかけは、通勤電車の中の養育家庭募集というポスターでした。その後、自分たちの甥や姪、近所の子どもたちの生活を見ながら夫と2年間話し合いました。お互いの兄弟、親にも相談しました。どちらも女性陣は、「子育てというのはそんな甘いものじゃない、自分の子どもでさえ大変な時もある」ということで賛成してくれませんでした。それでも私の父が、「色々な生き方があっていいんじゃないか、二人でよく話し合ったことなんだから、できるだけ自分たちも助けてやるからやってみてごらん」ということで気持ちを決めたわけです。

その後共稼ぎの私達に、5歳の男の子が紹介され委託が決まりました。それからが大変でした。

保育園児の時には、急激な環境の変化や新しい集団へ慣れなければいけないというストレスから、他の子と一緒に行動できない、行動しない、お昼寝は一切しませんでした。園長先生がいつも外に連れ出したり、あるいは一緒に遊んでくれたりして面倒を見てもらったということが後で分かりました。そして、何をしてもすべて嫌だ、嫌だと拒否をして、私たちは、「やだもんくん」という風にあだ名をつけ、「やだもんくんが始まったね、困ったね」と言っていました。あとは色々なことを大人に試し、このような行動をした時、この大人は自分にとってプラスなのかな、マイナスなのかなという試しがありました。赤ちゃん返り、長泣き。2時間ぐらいは平気で泣いていました。半年ほど過ぎ、園長先生が「この頃急に落ち着いてきましたよ、きっとこの子は自分の居場所がみつかったんでしょう」と言って下さり、ほっとしました。

入学前には、教育委員会と学校を数回にわたって訪問し、養育家庭制度の理解と協力を得られるようお願いしてきました。そして、無事小学校に入学しました。また一からやり直しです。また、やだもんが始まって、試しと長泣きが始まって、それにプラスして爪噛みが始まって、前にいた園に帰りたい、担任やお世話になっている学童の先生、クラスのお友達に当たる、物を投げる、そういった行動が始まってしまいました。何度も学校に呼び出されて、夜10時まで担任の先生と指導方針について話し合ったこともありました。でも、2年生になると、環境にも慣れてきて、お友達もうちに遊びに来るようになり、大半の問題行動は解決しました。だけど、進級する度に、担任の先生が変わる度に、4月、5月というのは私たちにとってみれば緊張の連続でした。

小学校の4年生の頃、「自分のことを知りたい」という希望が出てきて、児童相談

所の子ども担当の方から説明をしてもらいました。それ以後は、知りたいのですが、あまり自分からは聞くことはなくなりました。子どもはとても体が丈夫で、病気も怪我也全くしないので助かっています。「こんなに丈夫なあなたを産んでくれたお母さんに私はすごく感謝するよ」といつも言います。子どもは、「ふーん」とか言っています。けれど、心身ともにだんだんだんだん大人になっていく。きっと自分のルーツを知りたいという時期がいずれ来ると思います。そのときは、また児童相談所の方と相談しながら、できるだけ応えてあげたいなと思います。

それから今度は中学校です。入学直後は、やはり相当緊張していましたが、部活にも入り友達も増え、友達がうちに遊びに来るようにもなりました。月に一度、必ず保護者が学校に行くような行事が設定されている私立中学校に行ったので、私たちは、うちに来るお子さんの名前や顔と、保護者の顔が一致し、共通の情報をもとに安心して子育てができるという環境でした。

名前については本人に選択させました。子どもの希望で、「自分は自分の名前があるんだから、それを使いたい」と。それでも5年生の頃、「お母さんたちと同じ名前になりたい」と言い始めました。「それでもいいよ」と話をしました。そして、5年生の2学期の9月1日引き取り訓練の日、子どもが「ねえ、お母さん、僕、今日から〇〇になったんだよね」と言いました。それから子どもは私たちの姓を名乗るようになりました。パスポートの申請もしました。パスポートは本名で申請し、サインは姓を入れずに名前だけのパスポートを作りました。

目まぐるしく感情が変化する今、この子どもの毎日を見ていますと、この子は一体どんなことを考えているのか、心の中にどんな不満を持っているのか、どんなことを迷っているのか、なかなかつかむことができません。家庭内でも今、会話が成立しない状況になっています。親も悩みますし、きっと子どもも自分のもやもやしている部分で悩みがあると思います。子どもに、「誰となら自分の気持ちを話すことができるの?」と聞いたことがありました。そうしたら、「わからない」という返事でした。本当にわからないのだと思います。実子であれ、里子であれ、この思春期というのは戸惑いながら、苛立ちながら乗り越えていくのかなと思います。

18歳で措置解除になります。あと3年間、何とかまともな会話ができる日が来るかなと、それを楽しみにしています。今、中学3年生。来年の春、高校生になれるように一生懸命おしりをたたいています。が、「うるせえ、くそばばあ」で終わってしまいます。でも、子どもを信頼して、私よりもはるかに大きくなった子どもに助けをもらいながら、残りの3年間、できるだけ情報網を広くして子育てをしていきたいと思えます。

【里父】

里子の太郎くん（仮名）は今小学校4年生、10歳になります。幼い頃に実の母親からかなりひどい虐待を受け、施設に引き取られ、施設でずっと暮らしていたようです。交流を始めたときは幼稚園の年長さんで、何か月か交流をした上で卒園後にうちへ来て小学校入学と、タイミングが非常に良く、本人も新しい気持ちでうちに来たと思います。

太郎くんは、お母さんに会いたいかという話が出ると、絶対嫌だと拒否するようで、虐待によってかなり心の傷を負っているようでした。知的な遅れも少しあるということでしたが、地域の子供たちと一緒にと思い、普通学級に進学しました。勉強は非常に頑張っていて、漢字は繰り返しやって、とてもきれいな字がかけるようになりました。

この子は、幼児体験が大きく影響していると思うのですが、人間関係をつくっていくのが非常に苦手で、いじめに遭うのではないかととても心配しました。幸い小学校が良かったのか、今のところ先生からは仲良くやっていますよ、といわれ安心しています。彼は何を言ったら人が嫌がるか分からないようで、平気で人の嫌がることや神経を逆なですることを言ったり、やったりしてしまうところがあるので、周りのことをよく考えて、人と交わっていくことを学ぶように、常日頃言い聞かせています。

ただ、決して誤解していただきたくないのは、太郎君は基本的には心の優しい、とてもいい子です。同年代のやんちゃでわがままな子と比べても、とてもいい子だと思っています。

ところでうちには実子が2人いて、長女が高校にあがり、長男が小学校4年生になったときに太郎君が来ました。わがまま放題に育てていた2人のところに、突然降って来たようにもう1人子供が来て、独占的に愛情を受けていた実子2人にしてみれば、その割を食うという事態になりました。

太郎君がうちに来た当初、一番激しく反発したのは長女でした。嫌がるようなことを平気で言ったりやったりする太郎君に非常に怒り、あんな子大嫌い、絶対嫌だ、と反発する時期がかなり続きました。児童相談所の人を呼んでくれ、連れて帰ってもらうから、と言うので、何とか説得しようとしたのですが、なかなかうまくいきません。もうこれ以上は無理かなと思ったことも何度もありました。それでもそういうつらい時期を何とかやっていくうちに、だんだん太郎君も何をしたら里姉が怒るのがわかってきたのか、摩擦がおさまってきて、一緒に遊べるようになりました。1、2年たつうちに、里姉も彼を受け入れるようになってくれました。

太郎君には知的な遅れが少しあるので、学校の宿題も時間がかかり大変ですが、一番宿題を見てくれているのは里姉です。そのおかげでだんだん勉強についていけるようになりました。

土日に暇があると、太郎君の洋服を一緒に選んであげ、映画に連れて行ってあげたりして、お姉さんの感覚で可愛がってくれています。太郎君は空気を読むのが下手ですから、里母もいらいらして結構怒ります。そういう時、里姉が、ママ、それは言い過ぎなんじゃない、とかばってあげています。太郎君もだんだんそんなお姉ちゃんが好きになる。この4年間、太郎君と同じ目線で何かと気にかけて一番向き合ってくれているのは里姉だと感謝しています。

中学1年生の長男とは、男の子同士ということもあって、無邪気にじゃれ合っている感じです。太郎君が家に来て間もない頃、長男は小学校4年生になったばかりで、みんなを出かけて私が太郎君と手をつないでいると、手をつないじゃだめだよ、とそつと言ってきたりしました。やきもちなのか、そうしたことは当初受け入れがたかったようでした。今では2人は仲のいい兄弟同士でふざけ合う関係です。太郎君は、里姉に対しては、怖いという印象から始まっていますので、絶対口答えしませんが、3歳離れている里兄には、結構自己主張して、やり返しています。2人でじゃれ合っているのがだんだん本気になってきて、しまいには太郎君が泣き出してしまう。あるいは上の子が、何してんのよと里母に怒られる。男の兄弟でよくあるパターンです。里兄は、じゃれ合う相手ができて嬉しい反面、自分に対等に向かってくるのが気に入らないようですが、それはあんたが彼と同じ水準だからだよ、しょうがないね、と言いつつ聞かせてあります。でも、太郎君からすればこうやってふざけ合うと同時に、対等に自己を主張できる相手がいて、精神安定上とてもいい関係だと感じます。

4年近くやってきて、私は、実子と里子はお互いにいい関係を作りながらやっていきつつあるのかなと感じています。転校生がいじめに遭いやすいように、人間は異分子が入ってくると排除しようという力学が働きがちで、当初は太郎君に対しても確かに葛藤がありました。時間をかけてぶつかり、泣き、怒り、試行錯誤しながら排除するのではなくて家族として受け入れていく、その過程をたどったと思います。3人の子どもがお互いに育ち合っているという実感があります。

反対していた家族を説得して養育家庭を始めることを決めた私は、充分にかかわりきれていないと反省しています。里姉の10分の1くらいでも太郎君と向き合う時間を作って、少しでも責任を果たしていきたいと思っています。



10 只ちゃんに会えてよかった

【里母】

私は現在、4歳の女の子を預かっています。一緒に生活を始めて1年と5か月になります。6歳の実子の男の子を病気で亡くし、それからしばらくは子育てをすることは考えていなかったのですが、養育家庭制度があることを知り、最初はフレンドホーム（施設の子供を週末等に預かる制度）に登録しました。ちょうどそのころNHKで、連続ドラマ「瞳」が始まっていた時でした。

うちの子は、警戒心がとにかく強く、人見知りが激しいのです。しかし最初に会った時に、前もって大泣きされると言われていたのですが、泣くことはありませんでした。その後、私が一人で会いに行った時は、固まってしまって、無言で涙を流していました。その姿がすごく可愛くて抱き上げたのですが、泣くことはなく不安そうに私に抱かれていました。お砂場に行って「ねえ、一緒に遊ぼうよ」と言っても、私の膝にずっともたれかかるようにしていたので、とても不思議な感じがしました。

交流中はすごく楽しそうに遊んでいるのですが、声を出すことはなく、主人が一緒に行くと一言もしゃべりませんでした。会話らしい会話というのは、家にお泊まりに来るようになってからだったと思います。

一緒に生活をはじめて、一か月間はやはり主人とは口を聞きませんでした。言われたことに対して、「うん。」とうなずくのですが、声は出ません。今はすごくおしゃべりなのですが、その頃は、公園に連れて行っても、よその子が遊んでいると後ろから私の手を引いて「帰ろう、帰ろう。」と言います。誰もいないと走って行って遊び出す、そんな感じの子でした。二か月位した頃に、何をしても泣きやまない事がありました。その時は困りました。でも、そのうちもう泣き疲れて、最後の方は唸り声みたいに、節がつくのです。だから、こっちが聞いていて笑ってしまうような感じでした。外へ連れ出しても、「もう帰ろう。」と言うと床にひっくり返って、足をバタバタさせて、動いてくれなくて、そんなことがしばらく続きました。今はまったく泣かなくなりました。転んでも泣かないし、すごく聞きわけがよくなり、私の方が驚いています。

うちの子は3歳過ぎて我が家に来たのですが、まだおむつをしていました。それとてにかく、早く取りたくて、一週間した時から取り始めて、四日間くらいでおしっこは大丈夫になりました。しかし、うんちの方をなかなかトイレでしてくれなくて、パンツの中にしてしまっていました。うちの子は、ハローキティが大好きなのです。それで「トイレできちんとできたら、ピューロランドへ行こう。」と言いました。すると、次からちゃんとトイレでするようになりました。また、スーパーに買い物に連れて行ってカートに乗せていると、レジの人が子供に「こんにちは。」と挨拶してくれるのですが、うちの子は固まってしまって、そっぽを向いてしまうのです。その時も「ちゃ

んと『こんにちは。』と言われたら、『こんにちは。』と言うんだよ、できたらピューロランドへ行こうね。」と言いました。それで、やはりできるようになりました。

うちの子は、実の母親と交流があります。家に来て、一度会う約束をしたのですが、母親は来ませんでした。実の母を「ママ」と呼んで、私を「お母さん」と呼んでいます。交流では、「おじさん」「おばさん」と呼んでいたのですが、公園などで遊んでいると、周りの方は私をお母さんだと思って話しかけてきますが、子供が来て「おばちゃん。」と言うと、「あ、お母さんじゃないんだ。」「お母さんは何しているの。」等と、深く聞いてくる方がいらっしやって、それで、結局、幼稚園に入る前に、「お父さん」「お母さん」に直しました。本人は、幼稚園に入る前には、誰でもママという存在とお母さんという存在があるというように思っていたところがあったので、入園後はどうもそれが違うらしいと思ったのか、私にいろんなことを聞くようになりました。この子がどこまで理解しているかは分からないのですが、これから先にいろんな事を考え、思っ生きていくことを思うと、やはり何とも言えない気持ちになります。

幼稚園の身近な人とか、近所の方にはきちんと養育家庭であるということをお話しています。思った以上に多くの方が受け入れてくれて、理解してくださり、感謝しています。今はとても可愛い時で、最初は口を聞かなかった主人とも、今では主人が帰ってくると「お父さん、お父さん。」となつくのです。私に「お母さんの王子様はお父さんなの？」と聞くので、「そうよ。」と言うと、「お父さんは私の王子様だから、お母さん他にいい人探して。」「私はお父さんと結婚式するんだから。」と言うのです。本当に主人も可愛くて、可愛くてしょうがないみたいです。

これから成長していく過程で、いろいろなことがあると思いますが、多くの先輩方がいらっしやり、アドバイスを頂けるので助かります。

今は本当に、この子と会えてよかったなと思います。本当に健康で、家に来て一度も熱をだしたことがなく、風邪をひいても市販の薬を飲ませて、それで治ってしまうくらい元気な子です。踊ることと、歌うことが大好きで、本当に一年でも二年でも早く登録していればよかったなと、今は思っています。



【里母】

私が里親を考えたきっかけは、若いころから関心もあり、また、子どもが好きというところもあったので、子育ても一段落し安心したところで、養育家庭の特集をテレビでやっていたのを見て興味を持ち、養育家庭の体験発表を聞きに行ったのが里親を登録したきっかけです。

実子の娘二人に相談をすると二人とも賛成をしてくれました。主人には最初いろいろ言われましたが、話をしていくうちに賛成をしてくれました。

委託の希望は、1歳、2歳の女の子を希望していましたが、実際に交流が始まったのは4歳の女の子でした。外出、外泊等を行い委託となりましたが、実際やってみると、大変な部分もあり、研修だけではつかみきれないこともありました。委託されたのが、5月でしたので幼稚園に空きがなく、いろいろ問い合わせて、やっと近隣の市の幼稚園に無事に入園することができました。朝の登園時に嫌いなものが出ると食べないで、一言も口をきかなくなり、座ったまま動かないのです。1時間ぐらい平気でいました。バスも行っちゃって、今日お休みしますというのを何回か繰り返しました。毎日、大変な思いをしながらも一日一日過ごしていました。登園して1か月ぐらいの日に、帰宅した幼稚園バッグの中から見なれないキーホルダーが出てきました。聞いてみると、「何々ちゃんからもらったの。」という話を聞いて、「あなたにも友達ができたのね、よかったね。」とみんなで喜んでいたのですが、そのうちに、こちらが知らない物が時々入っていることがあり、大騒ぎをしたこともありました。家でもいろいろ悪さをしてくれますので目が離せません。

小学校に入学をした時に、前もって担任の先生には養育家庭であることを話しておきました。まだ、若い先生でしたが、落ちつきのあるしっかりした先生でしたので安心しました。学校での個人面談時に、先生から家庭での食事について、質問がありました。何でそんなことを聞かれるのかが分からなかったのですが、「給食の食べる量が私の量より多いのです。」って言われました。確かに、食にこだわるところはありましたが、聞いたときには驚きました。今、学校の健康カードに軽度肥満と書かれてしまいました。我が家では、食事の量と体を動かすということを何とか目標にして頑張っています。

ここ最近、家族というのにこだわるようになりました。先日も七五三に出かけたのですが、家族みんなで写真を撮りたいと言うので、みんなで行くことにしたのですが、下の子が仕事で行かれず、長女が一緒に行ってくれました。お気に入りのうさぎさんのワンピースを着て、喜んで写真を撮り楽しい一日を過ごしました。

我が家に来た当初言葉数は少なかったのですが、学校に行くようになったら、言葉

が増えました。夕食時には学校での出来事を話してくれます。時には、お友達を連れてきて、「この人、うちのお母さん」って紹介してくれています。私にとってはとてもうれしいのですが、彼女には実母がおり、夏と冬に年に2回、面会交流をしています。お友達には私のことをうちのお母さんと、必ず紹介してくれています。「かわいいでしょ。」とまで言ってくれています。まだまだ、悩みも尽きませんが、来たときに比べると顔つきもがらりと変わりました。お友達からも「顔つきが変わったね、雰囲気がすごく優しくなったね。」と言われると、私もうれしくなります。大変な思いをした分、そういう変化が非常にうれしいです。また、これまであったいろいろなことも自分の受けとめ方によって、大変になるか、喜びになるか、自分次第の受け止め方によることが大きいのかなと最近やっとわかってきました。

我が家では、お父さんは大変優しい存在です。何でも言うことを聞いてくれる人です。2人で留守番してくれるかなと私がお願いすると本人は大喜びです。そこにお姉ちゃんがいると、「何でお姉ちゃんがいるの。どこにも行かないの。お買い物行かないの。」と自分でお姉ちゃんに交渉しています。どうしてもお父さんと2人きりになりたいようです。主人と2人きりになったら、それこそ天国ですから。「あれ出して、これ出して、これ食べる、あれ食べる。」私が外出から帰ってきたりすると、家の中は山のようにごみだらけです。外出先から帰るコールすると、こりゃ大変だと思い、彼女はあわてて片付けているようですが、片付け方が、見えないところのすき間に片付けているので、私に怒られます。結局、私が掃除をしているという状態です。ただ、主人も、言葉遣いとか行儀とかは厳しくしつけをしています。いつもやさしいお父さんが言うと、さすがにこたえるらしくて、渋々従っています。少しずつですけども我が家にもなれてきました。幼稚園、学校と社会経験をしていくなかで、本人も少しずつ変化し成長しています。振り返って思うことは、実子のときにはなかった苦労は確かにありますが、また、そのことがすごく楽しくて、こんなふうにもなったんだ、あんなふうにもとれるようになったんだとか、こんなことも言ってくれるようになったんだというのが、実子のときにはなかった経験です。そのことが楽しくもあり、うれしいことです。成長して行く彼女の姿を見ることが、養育家庭をやっている糧になっていると思います。これからもずっと彼女が我が家の一員として生活していければいいなと家族一同思っています。



12 Y君を迎えて 笑い と 驚きの 日常

【里母】

私達がどうして里親になることに決めたのかをお話ししたいと思います。私達には実子がいません。実子を作るために不妊治療にも通いました。しかし、夢はかなわず、落ち込んでいる私を見た友人が、里親制度があるよと教えてくれたのです。しかし、そのときは、自分がおなかを痛めていない子供を育てることができるのか心配で、やってみようとは思いませんでした。また、私達を心配した周囲の人達に、やめておきな、子供なんか、そんなことをしないで、仕事をして2人の生活を大事にしたらいいいんじゃないのと言われたからです。

しかし、里親になろうと決意して、児童相談所の門をたたきました。そこまでに4年という月日がたっていました。その後、研修、セミナーなどに進んで参加するようになりました。それから委託されるまでに4年もかかりましたが、その間、いつか会える子供に夢を膨らませていました。Y君を紹介されたとき、本当に嬉しかった。あのとき、あきらめなくてよかったと思います。毎日、ぎゅーっと抱きしめました。まだ、来たころは小さな手で、私の腰ぐらまでしかない体でした。どうか自分のことが好きになり、大人になったときに自信を持って生きてほしいと願ったものです。

Y君は今年の4月から1年生になりました。3月に千葉に引っ越してきたので、友達ができるか、とても心配していましたが、あっという間に友達ができました。

私自身も、経験がないことは、見たり、聞いたり、体験したりして、ようやくできるようになります。里子に限らず、子供でも大人でも、経験するということは人間性を育てる上でとても重要だと思います。私が、経験の重要性に気づかされた出来事がありました。それをお話ししたいと思います。

エピソード1、スーパー出入り禁止事件。それは委託直後のときに、スーパーに買い物に出かけたときのことでした。Y君が試食コーナーのウインナーを食べていた直後、気がつくともY君の口の周りがコロケでいっぱいになっていたのです。「どうしたの？」と尋ねたら、Y君は悪びれる様子もなく「おいしかった」と答えるので、私は目を丸くしてしまいました。Y君には試食と売り物の区別ができないのです。Y君に何度も言い聞かせ、シミュレーションも行い、練習もしましたが、それでも売り物を食べてしまうことが何度もあり、とうとうあるスーパーから出入り禁止にされました。しかし当時はたくさんのスーパーが近くにあったので、「よかった、スーパーがたくさんあって」と言っていたら、私の友人には大笑いされました。

エピソード2、トイレトペーパー、海事件。個室トイレの経験がなかったY君。当初、トイレに入るのをとても怖がりました。そこで、自宅のトイレの中にアンパンマンのキャラクターをたくさん貼りつけ、トイレへ行けるようにしたのです。ある日、Y君がトイレから、「ママ、海になっちゃった」と言われ、見に行くと、見事にトイレトペーパーが芯だけになっていました。そこで私は、「ほんとうだ、海になったね」と、怒りを通り越して2人で大笑いしたのです。

エピソード3、黄色いロッカー、シール貼り事件。Y君がところ構わず、自宅にシ

ールを貼るので、家にあった黄色のカラーボックスに、「黄色いロッカーだけ、シールを貼っていいのよ」と言いました。するとある日、音楽教室の先生が、いつもシールを貼られて、はがすのが大変で困っていると言っているのを耳にし、もしかしてY君が貼っているのではないかと思い、本人に尋ねると、「ママ、黄色いボックスに貼っていいんだよね」と言ったのです。私がY君に「うちの、黄色いボックス」と言わなかったので、5歳のY君は黄色いボックスなら、どこのものでも貼って良いのだと思ったのです。

このようなエピソードは生活の中で日々、起こります。ただ、考えてみてください。もし、文化の違う異国の地に自分が突然連れていかれてもしたら、その国のルールや習慣などをすぐに理解できるでしょうか。私はそんな自信もなければ、ましてや異国に住みたいという気持ちを持っていません。今、振り返ると、Y君の気持ちはそういう思いではなかったと感じます。だからこそ、どうか、子供の気持ちに寄り添う心を持つようにしてください。

今現在、7歳になったY君は、小学校に40分もかけて登校し、学校が楽しいと言っています。先日、初めてもらった通知表では、先生よりお褒めの言葉もいただきました。今、何でもできるようになったY君は「昔のお母さんは優しかった」と笑って言うのです。

先日、千葉県里親大会で、茨城県高萩市長の草間吉夫さんの講演会がありました。生まれてから18年間、施設で暮らしたという方でした。小学生のとき、帰宅ができない、帰る家がないということが一番つらかった。その後の里親との出会いは、家庭のぬくもりが実感できて嬉しかったとおっしゃっていました。私はこの話を聞いて、家庭のぬくもり、家庭が、帰る家があるというのは想像以上に嬉しいことだとわかりました。そして、血縁には恵まれなかったが、そうではない縁に恵まれて今があり、自分の生き立ちを受けとめることができるとおっしゃっていました。この方の言うように、きっとY君もそう思ってくれると思っています。

里親制度は誰にでもチャンスはあります。私は里親制度のことを知ってから何年も迷い、そして、登録してからも里親になるまでに何年もかかったのです。一般の方にはわかってもらえないこともたくさんあるかもしれません。でも里親にはたくさんの仲間がいます。まだ未委託で、お子さんを首を長くして待っている方もいらっしゃると思います。いつの日かめぐり会えるお子さんを待っていてください。そして、里親になろうか、迷っている方もたくさんいると思います。そんなときは児童相談所の方に相談してほしいと思っています。

最後に、この里親制度はすばらしい制度だと確信しています。児童相談所の方、施設の方、里親の方、たくさんの協力があり、初めて成り立つ制度です。だからこそ、里親体験発表をたくさんの方に聞いていただきたいです。この制度の必要性、重要性を再認識していただける機会にさせていただきたいのです。この体験発表をさせていただきまして、関係者の方に深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【里子】

私は、両親が離婚したため養育困難ということで、4歳から中学卒業まで児童養護施設で生活をしていました。養育家庭で生活を始めたのは、高校の3年間ですが、その養育家庭さんとは、6歳の時からフレンドホームとして交流していただいていた。養育家庭での生活は、思春期真っただ中の時期でしたが、幼児の時から交流がありましたので特に違和感はなく、生活を共にすることができました。そうした経験から施設と比較しながら養育家庭での生活についてお話をさせていただこうと思います。

お世話いただいた養育家庭さんには、フレンドホームでの交流の時から家族ぐるみでたくさん場所へ出かける機会を作っていただきました。また、親戚の方々と会う毎に私を家族のように紹介してくださり、私が可愛がっていただいていることを常に感じさせてくれていました。その他にも、普通の家庭における生活の時間の流れやその様子などを3年という短い期間でしたが知ることができ、私にとって得ることがたくさんありました。

施設では、共同生活なので、自分ひとりの時間を作るということはなかなか困難でした。養育家庭の生活では、自分の部屋を与えていただきひとりの時間をつくることができました。また、自分だけを重点的に見てくれているという安心感も与えてくれている実感を持ちました。施設では、職員がどんなに優しくても自分だけを見てくれているという安心感はあまり感じ取れず、自分の気持ちを押し殺し、それを仕方ないと思いながら生活している子たちが何人もいます。養育家庭は、子どもの安心を図るためにとても重要な存在だと考えています。

また、家庭で生活することでとても自分の力になったことは、養育家庭のおじさん、おばさんたちの様子を見ることで夫婦の絆みたいなものを感じたことです。それは、ちょっとした時間に夜2人でお酒を一緒に飲んでいる姿だったり、一緒によく出かけたりすることなどですが、仲の良い2人を見ることは、施設では絶対に見ることのできない光景です。そこから夫婦のあり方や自分の未来の家庭像へも大きな影響を与えてくれました。

そもそも、なぜ私が養育家庭での生活を希望したかという、少し話はそれてしまうのですが、施設で生活していると、例えば学校のプリントとかで保護者の人の印が必要とされることがありますが、毎回保護者の名前が違う人の苗字なんですね。施設の職員の印だったり、園長先生の印だったりします。私は、Tという苗字ですが、それが毎回、違う人の苗字ということにすごく違和感があって嫌でした。また、学校から帰ってきて施設に入る時もすごく嫌でした。周りで誰か友達が見ていないかなど、特に中学生、思春期の頃は常に意識して生活していました。そんな時に、養育家庭への話が来ましたので、言い方はあまり良くないのですが、施設を逃げだすような形で受けることにしました。しかし、養育家庭での生活は、自分にとってすべてがプラス

になったと思っています。

高校入学と同時に養育家庭で生活をするようになってからは、おじさん、おばさんと3人の娘さんと過ごしていたのですが、ずっと以前から顔を知っているし、どういう人なのかも知っているのでも、本当に自由に生活させてもらいました。逆に、自由を与えられ過ぎて、夜遊びも少しするようになってしまいました。当時、友達の家に行ったり、外で遊ぶのは自分にとってすごく楽しかったのです。いけないこと、迷惑をかけているとは解っているのですが、やはり誘いが来ちゃうと断れなくなってしまいます。その都度、おじさんとおばさんに怒られますが、その怒り方は、私にとって強すぎるものではなく、出ていく私に対して「どうでもいいから外出を許しているのではないよ」みたいな、そんな視線を受けながら毎回、私は家を出ていました(笑)。今は、本当に迷惑をかけたと反省していて、この間もその頃の話をして「ごめんなさい」と謝ったところです。

そんな感じで3年間が無事に過ぎ、自立生活を始めました。自立後、何とか短大を卒業して保育士の資格を得て今は、児童養護施設で働いていますが、学生時代は困難の連続でした。生活をしていく上での一番の問題はやはりお金の面です。まるっきりひとりという環境をいきなり与えられ、これまでは結構何とかなる状況で、お金のことを余り意識しないで、ただ淡々と毎日を楽しんでいると思いながら過ごしてきたことがいけなかったようで金銭面での浪費に歯どめがかからず、困ることがたびたびありました。私は、高校2年から3年までバイト生活を続けていましたが、そのお金を貯金せずに全部遊びに使ってしまっていました。施設の時には、職員がお金の管理をしてくれていましたので、お金の管理には無知だったと感じています。そんな生活を送りながらも養育家庭のおじさん、おばさんやアン基金、ホーム、数々の奨学金制度、学校(短大)に助けていただきながら何とか卒業して、都内の養護施設に就職できました。今、2年目を迎えています。社会人となって多くの問題に直面しますが、改めて養育家庭さんとの繋がりを現在も継続していただいていることをありがたく思っています。

最初にお話ししましたとおり、私には今も全く両親との関わりはありません。学生時代は周りに友達がいて、その友達に悩みなどを話せば解決して、心が安まっていました。しかし、社会へ出ると、やはり大人の意見や経験だったり、支えというものの存在がとても恋しくなります。そういうことで以前、私がいた施設の先生とも、相談などで今も関わりのある方が何人かいらっしゃいますが、やはり両親の支えがないという負担は結構あります。でも、その中で養育家庭さんが幼い時からずっと自分のことを見守り続けてくれたことはとても心強いと改めて実感しています。

今の私には荷が重過ぎて、まだ考えることはできませんが、自分にとって養育家庭は重要な存在ですし、尊敬していますので私も将来養育家庭になって子どもを見ることができたら良いと思っています。

14 里親仲間や家族に変えられて

【里母】

私は、現在40代後半、子供を受託してから1年が経ちました。現在3歳10か月になる男の子1人を預っております。この一年、これからどんなことがあるのだろうと、いろいろ考えたりもしたのですが、今では、何か乗り切っているような感覚を持っております。子供と自然な家族関係を持てるようになってきていることが、そんな気持ちにさせてくれたと思っています。

そもそも、子供を授からないという個人的事情もあって関心を持ちはじめた里親制度ですが、養育家庭の研修を申し込むまでに10年かかりました。

何故かという、ひとつは夫婦の間で思いが違いました。主人は特別養子＝実子として育てたいという希望がありましたので、申し込むなら特別養子のほうが良いということだったのです。もう一つは、親族の問題です。「里親もいいかなと思っているの」と話したとき、開口一番、自分の母親からは、「あなた、そんな自分から厄介背負うようなことやめなさい」と、反対されてしまいました。嫁ぎ先の母からも、「そういうのは大変よ。夫婦2人で仲よく暮らせばいいんじゃないの」と言われ、そうかもしれないと、自分には荷が重いかもしれないとふん切りが付かずじまい。両方の親は反対だし、妹も反対、主人は特別養子が良いという状況の中で、どんどん自分の年齢も上がってくるし、この先夫婦2人で暮らしていくのか、それとも里親という形で子供と接するのか、自分がどうしたいのかということを考えました。

考え抜いた末に出した結論は、どうなるかわからないけれど、研修だけは申し込んでみようということでした。まずはどんなものか知りたいし、研修に参加してみようと思ったのが、2回目のこういう体験発表の場に来たときです。

その研修は、本当に勉強になりました。今、とても役立っていますし、世の中のお母さんたち全部こんな研修を受けられたらいいんじゃないかと思うぐらい、子供の養育のことなど教えていただいたことが、不安解消になりました。

子供を紹介していただいたあとは、相性が合うかどうかということで、始め2時間、次に6時間、6時間会うのを何日か重ねたのちに、外泊というやりとりをさせていただくのですが、そうこうしているうちに、うちの主人は里子がかわいくてめろめろになって、「早く来ないかな」と待つような状況でした。

ただ、私のように子育てを経験していない者が突然母親になるというのは、何をしてもいいかわからない状態でした。こちらも緊張していたんですけども、実は子どもの方もすごく緊張していたみたいです。だから、その時期、あまり表情がなくて、すごくまじめでいい子みたいな感じでした。そんなのも1か月ぐらいで自然になくなって、3か月ぐらいになったら自然と家族というふうに自分も思えるようになって、子供のほうもそのころからわがままは言うし、しつこいことはするし、かわいさも増してくるという状態でした。

特に「お母さん」と呼んでもらえることが私にとっては、とてもうれしかったです。一生「お母さん」なんて呼んでもらえると思っていなかったの、それだけでもかわいと思わせていただいています。

実は、そうやって子供が家に来るようになってから、自分の母とか嫁ぎ先の母が「大丈夫？」とか電話をくれるのです。私は反対されたという思いがあったので、お母さんたちにあまり助けを求めなかったのですが、里子が熱を出した時に、せっぱ詰まって留守番をお願いしたのです。そうしたら、すぐ駆けつけてくれて、「あんた、何でもっと早く言わないのよ」と言うのです。「でも、お母さん、反対したじゃない」と言ったら、「私、そんなこと言った？」と言うのです。私は母にすごい思いで相談していたのですが、母たちは、それ程の思いで答えたわけではなかったのかもしれない。全く今は、里子のことを受け入れて、かわいい、かわいいと言ってくれています。自分が考えていたよりも、ハードルは高くなかったという思いです。結果的には今のところ、案ずるより生むが易しでした。

里子を預ってから何に困ったかという、足の臭いでした。暑い夏に裸足で靴を履いたあとの臭いに「私、生理的にだめかもしれない」と思ったのです。その臭さに悩んでいた時に、ちょうど里親の会があってその話をしたら、「何言ってるのよ。子供の足は臭いのよ」と一笑されて、「ほかのお母さんたちも『臭いのよね、うちの子の足』って言っているわよ」と言われたときに、「あ、みんな臭いんだ」と思えたのです。そう言われてから、においが気にならなくなりました。

今お話した里親の会ですが、この会の方々と知り合いになれたことは、私にとってすごく支えになっています。同じようなお子さんと暮らされている先輩の、いろいろな話が聞けるのです。例えば、私は、子どもがどれぐらい大きくなるかわからなかったし、今どれぐらいの洋服を何枚ぐらい買ったらいいいのかがわからなかったの、揃えられなかったのですが、里親さん方が「じゃ、うちにあるのを全部送ってあげるから、着せていなさい。そのうちわかるわよ」と言って、段ボール2箱を送ってくれたのです。

「どうしてる？」と声をかけてくれるだけでも助かりました。こういう病院があるわよとか、こういうときはこういうところに相談するのよとか言ってくれます。

皆さん、年代が違うお子さん、既に小学校の子とか、中学校の子を預っていらっしゃるの、そういうお子さんの姿、里親さんと預っている子が交流している姿を見るだけでも、私はとても安心しました。自分の将来像ではないですけども、イメージが持てるという感じなので、何となくやっていけるかもしれないという安心感と、何かあったらあの人に、相談してみようというイメージが持てて、とてもありがたいと思っています。



【里母】

K（里子）は1歳11か月のときに我が家にやってきました。その半年ぐらい前からKとの交流が始まりましたが、乳児院で面会する度に泣かれてしまいました。もう駄目なのかな、と思っていると乳児院の院長先生から「パパとママを求めていますから大丈夫ですよ。」と言っていただきました。何とか私たちに懐いてくれることを期待しながら通い、半年後に交流が終わりました。ようやく懐いてくれるようになって、一緒に住むことが決まり、Kと一緒に我家に帰ってきました。この時にKが着ていた帽子と洋服と靴は、大事にとってあります。半年以上通った乳児院に向かう途中の坂道を今でも通る時は、当時の不安とか期待とか切ない気持ちが蘇って、自然と涙が出てきます。

養育家庭になるきっかけは、若い時から子どもが大好きで、子育てほど大変だけれどやりがいのあることはないと思っていたことによります。養育家庭になるからには、全力で真正面からぶつかっていこうと思っていました。ですが、最近ちょっと真正面からぶつかり過ぎたかな、私に余裕がなさ過ぎたかな、もう少しゆっくりやさしく育ててもよかったかなと反省することもあります。

Kとは、夢中になって向き合ってきたつもりでした。しかし、常に私は、Kを100%は受け入れていない、という気持ちを持っていることに気がついていました。今さらと思われると思いますので、それは誰にも言えませんでした。

幼稚園に入るまでは、毎日毎日公園に行っていました。「よく行っていたよね。」と今でも友人に言われます。幼稚園も親子関係が安定するまではと1年遅らせて2年保育にしました。幼稚園に入ってから、お母さん方と話をすると、どこの病院で生まれたの？何グラムで生まれたの？という話がよく出ていました。そんな時は、わざと違う話を持っていこうとしたり、何気なくその場を離れたりとかしていました。まだ慣れていなかったもので、適当に話を合わせるという術を知りませんでした。

小学校の入学のときは、養育家庭センター（※）のワーカーの方が学校に、「通称名で行くので間違えないように。」ということで、2回ぐらい伝えに行ってくださいたんですけれども、入学の手続の受付のときに本名で名簿に載っていて、慌ててその場を何とか取り繕ったりもしました。

小学校3年生の時に、生い立ちの記という授業がありました。どんなふうにも生まれたのか、親はどんな気持ちだったとか、赤ちゃんの時の写真を貼って持っていくというものでした。その日に、学校から帰ってきたら子供から話してきて、「親が自分の子供を育てないなんて最低だよ。」と言ってきたので、「いよいよ来たな。」と思いました。その日の為にシミュレーションしていて、センターのワーカーの方からもアドバ

イスを頂いていたので、冷静に真実告知をすることができました。何か2人とも、これで隠し事もなくなって、すっきりした気持ちになったような気がしました。

中学校に入ってから、1年に1回ぐらいは呼び出しがあって、その学校の帰り道に、いつも寄るとさわると口喧嘩をしていたんですけれども、そういった時はお互いに本当に素直になれて、Kの小さい頃の話と、私も親になるのが初めてで、育て方が分からなくて嫌な思いをさせてしまったね、と素直に謝ることもできました。Kは、「へえ、そうなの。全然覚えていないよ。」と返し、彼は友達関係のことや学校の話など、普段言わないことも素直に言うてくれました。何だ、そんなふうに思っていたのか、と私が偏見を持っていたことに気づかされました。それから、この子なりの成長の仕方なんだ。これがこの子の個性なんだ、とあって、人と比較したりするのはやめよう、この子の気持ちに沿っていこう、と思うようになりました。

中学2年生の時に再び呼び出しがありまして、その日の帰り道もまた、お互いに素直な気持ちになって、どう思っているのか、どうしたいのか等と話し合いました。その時を境に、私の中にあつた彼に対するわだかまりみたいなものが、何でなのかわからないんですけれども急に消えまして、“この子を愛している”というふうにも実感できました。ちょうどその時期に、児童相談所の訪問がありまして、私とKと4人で現況報告や何かをしていた時に、彼の前で、「かわいいとかそういう次元の問題ではなく、ほんとうに愛しているというふうにもやっと思えるようになったよ。」と言いました。

私自身、この心境になるまで、11年ぐらいかかってしまつて、私の性格もあるのでしょうけれども、何かぬぐい切れないものがあつたと思うんですが、ちょっと長過ぎると思われるかもしれませんが、仕方ありません。友達とか養育家庭センターのワーカーの方や近所の方、色々な方に支えられ、本当に迷いながら悩みながら、やっこの気持ちになれました。

今は彼に出会えてよかった、子育てをしてきてよかったと、本当に心から思います。

彼にはまだまだ超えなければいけない、ルーツとかいろいろなことがあると思いますけれども、見守っていきたいと思います。

※ 平成13年度まで東京都からの業務委託により里親支援を行っていた児童養護施設と乳児院



【里母】

私は、通信機器メーカーの会社にエンジニアとして従事しております。2年間ほど不妊治療をしましたが、子供に恵まれませんでした。時間とお金のかかる不妊治療をしながら子供が欲しい理由を自問自答した結果、答えは実子にこだわりなく、単に子供を育てたい、子育てにかかわってみたいということで、それが里親になったきっかけです。

母に不妊治療や子供に関する相談をしていくうち、東京都に里親制度があることを母が教えてくれました。早速インターネットで制度の内容を確認し、体験発表会に参加して発表者から実情を聞いてみました。その後主人に相談して申し込み、研修を経て、2年前に里親登録をしました。

私たち夫婦は長期養育という条件で委託を希望しました。子供を育てた経験がなく思春期のお子さんは難しいし、幼少期からかかわったほうが関係を築きやすいように思えたからです。そして登録から約3か月後の昨年1月に、1歳になる女の子を紹介されました。登録後すぐに紹介が来るとは期待していなかったので少しびっくりし、また、とてもうれしく思いました。母は喜んでくれると思っていたのに反して、「人様のお子さんをよい関係で育てていくことができるのか」と否定的な反応でした。しかし、子供を育てるのは私たち夫婦であり母には直接かかわりが無いと割り切って、また、このお話が私たち夫婦に来たのも何かの縁と思いお話を進めていただきました。

その後、児童相談所の職員が自宅に訪問して子供についてのお話があり、やっと立ちができた満1歳のお誕生日の写真を見ました。満面の笑顔が愛くるしいこの子供を家に迎えることができるのかと思うと、とても夢のように思えました。

親戚でも乳幼児を育てている家族がないので初対面はどのように接したら好印象を与えられるか見当がつかないまま、引き合わせ当日になりました。ドキドキしながらプレイルームに行ってみると、子供は他のお子さんたちと無邪気に遊んでいました。私たち夫婦や児相職員など、見なれない顔がぞろぞろ現れて泣いてしまうかと思いましたが、その子供はこちらの様子を伺いながら少し緊張した様子で遊んでいました。乳児院の職員はほとんど女性なので主人が接するのは難しいかなと心配していましたが、その子供は主人を見つけて近寄ってきて、遊んでいたおもちゃを差し出して遊びたがっている様子でした。この瞬間、私はこの子供を養育することに戸惑いが消えました。

交流が始まり、まず1週間に3回ほど、平日は午前中、週末はあいている時間帯に面会。次に平日面会と週末外出でした。その後、平日面会と週末お泊まり。最後は長期外泊で、交流は約8か月間でした。交流期間を通して平日の面会がありましたが、上司や同僚に事情を伝え理解をしてもらい特に業務における問題はありませんでした。

順調に交流が進み、委託へ移る時期になったところで、仕事と育児の両立に関して困難な場面がありました。委託開始となった際は、子供が家庭環境になれるまで最低

約1か月間ぐらいは主な養育者である私が仕事を休み、ゆったりとした時間の中で子供とかかわることが重要だと思っていました。しかし、会社の規定では、実子または養子に対する育児休暇や就業時間短縮は可能ですが、里子に関しては対象外でした。そこで人事に相談の上、特認休暇扱いにしてもらい、委託開始日から2か月間の予定で休暇を取得。また、子供が家庭環境になれてきたらすぐにでも会社に復帰することを希望していたので、委託前より保育園の入園申請をし、会社近くの新設の認証保育所に入園可能となりました。結局、約1か月間休暇を取得後、会社に復帰しました。会社近くの認証保育所なので電車やバスを使い、片道約1時間かけて通園しました。

今思うと、子供はこのころが一番ストレスが高かったように思えます。夜泣きは全くなかった子供がなかなか寝つかなくなり、手足をバタバタさせて大声で泣くようになりました。保育園に預けられて不安と興奮があったのか、「ママ来ない！」と泣くこともあり、私に不満を訴えているようでした。マンション暮らしのためにこのような状況では階下や隣人へ迷惑がかかるのではないかと不安になり、家では育てていけないのではと何回も弱気になりました。でも、ここでこの子が我が家から以前の施設に戻っても、その先は施設暮らしが続くかもしれないと思うと、「ママ！ママ！」と慕っている子供を委託解除にすることはできませんでした。結局、数週間後に状況は徐々に好転して、子供は日がたつにつれて保育園に慣れ、夜も泣かなくなりました。

そして今年4月からは希望していた区立の保育園に入園し、元気に通園しています。夫婦で協力して、送りはパパ、お迎えはママがしています。子供は保育園に着いてもパパと離れたくなくて一緒に遊んでほしいとせがむので、パパは子供としばらく遊んでいるようです。そのため子供のクラスの活動開始時間を過ぎてしまうこともあるようです。園長先生は、「パパが子供の気持ちを受けとめていてほほ笑ましい」とママに話してくれました。子供はパパが大好きで、お風呂もパパと一緒に入るのが楽しみです。

子供は、施設では保育士さんたちなどから愛情を受け、情緒豊かに育てられていたことと思いますが、親子の関係での愛情は薄かったせいか、人一倍甘えん坊さんで、ママがトイレに行くときでさえ、いまだに一緒についてきます。まだまだママとしての愛情が足りないのかなとったりして、子供の名前を呼びながら、「ママの大事、大事だよ」と言ってぎゅっと抱いてあげています。そんなときには、「甘えられてとても幸せ」と子供に感謝しています。

最後に、私の母のように「人様のお子さんを育てられるのか」とは誰もが思うことですが、愛情を持って丁寧に接することで人様のお子さんとの間でも深い関係を築くことができると信じています。里親になってみたい方がいましたら、ぜひ前向きに検討していただきたいと思っています。そして、一人でも多くのお子さんが家庭で養育されることをお祈りしております。

17 大好きからの明日へ

【里母】

この春から小学校1年生になりました7歳の男の子を養育しています。わが家に来て、4年半になります。性格は明るく活発で、とにかく元気、元気です。好奇心がいっぱいで、何でも自分でやってみないと気が済まず、自己主張もかなり強くします。また、すごく人懐こいところもありまして、周りの人との垣根がとても低く、おじいちゃん、おばあちゃん、お兄さん、お姉さん、同年代のお友達、小さい子、いろいろな人たちとすぐにコミュニケーションをとって、仲よくすることができます。そういう面では子供らしく、伸び伸びしているのですが、とにかく落ちつきがなくて、いつもちょろちょろ動いているという感じで、動いていない時にはおしゃべりをしているか食べているか。よく寝て、よく食べて、よく動いてという、男の子です。

最初に会ったのは乳児院でした。その時は、職員の方の後ろに隠れて、片目だけでそっとのぞいて、警戒心と緊張感いっぱい、こちらの様子を伺っていました。正直少し不安にもなったのですけれども、こうやって会えたのも、きっと何かの縁だなど、この縁を大切にしたいなと思って、交流を始めました。時間をかけて会いに行くうちに、少しずつ満面の笑みで私たちを迎えてくれるようになりました。そのうち、我が家に1泊、3泊、そして長期外泊となり、正式に委託となりました。しかし、交流当初は、全然しゃべらなくて、声もほとんど聞いたことがなかったので、担当の方に、もしかして言語に何か問題があるのですかと、ちょっと心配になって伺ったことがあるくらい、どちらかと言うとおとなしいタイプの男の子という印象でした。我が家に来て、ちょうど2週間ぐらいたったころだと思いますが、少しずつおしゃべりして、元気になったと思っていたら、今度は逆に全くというか、言うことを聞いてくれなくなったのです。それも、主人に対しては言うことを聞くのですが、二人きりの時に、私の言うことを聞いてくれないのです。「買い物に行こう」と言っても、「嫌だ」と言いますし、「じゃあ、靴を履こう」と言っても、履きません。何とか連れ出しても、横断歩道の真ん中で、行きたくないとしゃがみ込んで、青が点滅して、こちらは慌てて小脇に抱えて走って、冷や汗をかいたこともあります。スーパーに着いたら着いたで、今度は私が行こうとする方とは逆に、逆に行こうとするのです。スーパーの中を二人でぐるぐる回っていた記憶があります。帰りも、真っすぐ帰るなんていうことはなくて、買い物ひとつでも半日はかかっていたように思います。

里親の先輩のお母さんのお話を聞く機会があり、その先輩は、里子に毎日「あなたのこと、大好きよ」と言って、ぎゅっと抱きしめてあげているんですよというお話をされました。その話を聞いたときに、ああ、何てすてきなのだろうと思い、里子に来て私も早速実行したのです。「あなたのこと、大好きよ」と言って、ぎゅっと抱きしめ

たら、子供は、「え？ 大好き？ 大好き？」と、本当に目を輝かせて、うれしそうな顔をして何回も聞くのです。毎日「大好きよ」と言うと、「大好き？」と尋ねてくる、その笑顔がとてかわいらしくて、ああ、こんなに「大好き」という言葉をかけて欲しかったのだ、待ち望んでいたのだなと思うと、心がすごく熱くなったのを覚えています。ただ、今度は一日中、「大好き？ 大好き？」と聞かれるようになり、朝から晩まで、「大好き？」。外出しても、「大好き？ ママ？」と、もう毎日毎日、本当に何十回聞かれたかしらと思うぐらいに「大好き？ 大好き？」と聞かれました。それが2か月近く続いたかなと思います。最後は私のほうも、ちょっと、へとへとという感じになりました。でも、繰り返し聞いてくるのは、多分、不安が周期的に押し寄せてくるのだらうと思いました。それは私が「大好きよ」と答えると、すごく安心したような表情を浮かべるようになっていたからです。そのときに、ああ、この「大好きよ」は、あなたを全部受け入れていますよ、あなた全部を受け入れたいのですよと、そういう言葉だなと。そして、子供にとってはうれしく、心を安心させる、とてもすばらしい言葉なのだなど、実感しました。小学校に上がってやっと落ちつき、そういえば最近聞かなくなったなと思っていたら、先日、久しぶりに聞かれ、答えるのが大変ななんて思っていた時期もあったのですが、「大好きよ。あなたはお母さんの宝物よ」と言うと、またうれしそうな顔をしてくれて、その笑顔に私も癒されています。

里親になって今まで体験できなかったいろいろな体験を、虫や鳥を飼ったりとか、子供がいるからこそ、自然に触れる、生き物に触れる、四季を感じる、何かそういう経験がすごく増えたように思います。いい思い出も増え、これは素晴らしい財産となっていて、今では本当に里子が我が家になくってはならない大切な存在になっています。里子からも私たち里親がとても大切な存在であるということを、いろいろ伝えてくれます。必要とされる存在に自分になっているのだな、そういう気持ちを感じさせてくれた里子に、本当に今はありがたい感謝の気持ちでいます。

家族や地域の方々に支えられて、また里親をされている先輩や、今年年代の里親の方たちとの交流も、里子を育てる上では心の助けになりましたし、支えとなりました。里子を養育させていただいて思うのは、子供の笑顔は本当に素敵で、いいものだなど。その笑顔にどれだけこちらにも元気や力をもらって、日々癒されるか。そして、一人でも多くの里子が笑顔になれるように、そういうふうに私自身心から思いますし、今日、この私のつたない体験の話が、里親になろうかなと思っていらっしゃる方の、小さなきっかけになって、そしてこれから里子を迎えようとしていらっしゃる方の、少しでもお役に立てたら幸いです。

19 Hちゃんが家族の一員となって

【里父】

実子Yちゃんが2歳のときに養育家庭に登録し、Yちゃんが6歳のときに2歳のHちゃんが紹介されて我が家にきました。

そしてたまたま紹介されたHちゃんは、Yちゃんと同様に卵と牛乳のアレルギーがありました。その経験があるので、出かけるときは必ずお弁当を持ち、宿泊するときはインターネットで全部調べ、事前に連絡をして…ということをしてしました。

Hちゃんとの交流は、片道2時間半ぐらいかけて通い、5か月交流しました。2人とも働いていたので、土日に上の子をどちらかが見て、どちらかが行くということをして3か月以上続けました。その後、2人で行ったり、子供も含めて3人で行ったりしながら、一度外泊をして大丈夫だということになって家に来ました。1泊のときは、全然平気な顔をして何の問題もなく、本番になって、施設を出るときは大泣きし、電車に乗って2駅か3駅ぐらいつと泣いていました。今度は玄関に入るなりずっと突っ立って、30分か40分ぐらいいました。「私はこれからどうなるのだろう」という顔が、今でもとても印象に残っています。

施設の生活では、一緒に家族で食事はしないし、お風呂にも入らない。保育士の方は洋服を着たままお風呂に入れるので、母親と一緒に裸でお風呂に入ることはできませんでしたし、食卓を囲んで親と一緒に食べるということもできませんでした。そういう、いわゆるファミリー的な生活を営むということがなかなか馴染まなかったです。

Yちゃんと同じ保育園に登園することができたHちゃんは、上から「おーい」と言って叫んで、下で遊んでいるYちゃんが答えて…互いに声をかけ合って過ごすような日があり、Yちゃんと同じ園に入れたことが良かったなと思っています。それはとても幸運でした。

来た当時は驚くようなことがいっぱいありました。全然知らない人でも、「こんにちは」と言ってすぐ抱っこされる。それが家庭となると、その特定の親とか子供とのつながりの中で、生きていかなければならないという、その切りかえが最近少しずつ見えてきています。例えば、お母さんとYちゃんとHちゃんと3人で医療センターに通院する…といったように、誰と何をするかというのを、家族の一員として意識されてきているんじゃないかなと思っています。あと、自分を守るということ、物に対して固執するということがあります。来たときは、大きい紙袋一個ぶら下げて、「他に荷物あったら送ってください」と施設に言ったら、「いや、この子の荷物はこれだけです」と言われました。来たときは、Yちゃんと同じ向かい合わせでダンスを用意して、そこにちゃんと入れられるように作って迎えましたけれども、自分の物と人の物に対しての固執がすごく強くて、逆に、人の物に対する憧れから見たいということになって、来た当時はYちゃんの珍しい物を色々探って取り合いになったり、Yちゃんによく泣

かされてきました。ここはHちゃん、ここはYちゃんと決めて、「Yちゃんのところはちゃんと聞いてからやってね」と言っています。だんだんそれが定着をしてきて、絵本なんか「みんなで見ようね」と伝えると、自分の本を本箱の方に移すこともできるようになってきました。そういうことで少しずつ関係がつくられていき、今まで問題があるなと思うところが解きほぐされるようになってきたと思っています。

Yちゃんが書いた手紙を紹介します。「お父さんへ。いつも御飯とみんなのお手伝いしてくれてありがとう。これからは私もやってあげるからね。お父さんとお母さんが死んでも私がいるからHちゃんは平気だよ。Yより」というふうに書いてあります。こういう手紙を最近書くようになって、朝、アトピーのスキンケアでシャワーをしますが、YちゃんがHちゃんをシャワーをして、Hちゃんを先にあげて、後でYちゃんも入って出てくるとか、とても面倒を見てくれるようになりました。少し安定した関係がようやくできてきたかなというところですよ。Hちゃんも最近、よく気がきいて、私が一昨日、昨日と風邪を引いてダウンしていたら、「お父さん、まだ痛い？」って毎日聞きます。「まだ痛い」と言ったら、布団を片づけるときに「お父さんのは敷いておいた方がいい、まだ寝るかもしれない」と。そういうことを3歳の子が言うのです。食卓についても、最初はお父さん、お母さんの隣じゃないと絶対だめだったHちゃんが、だんだん、楕円形の食卓なんです、「お母さん、おーい」と言って隣でなくても食べられるようになりました。

Hちゃんは2歳半まで施設にいたわけですけども、やっぱり自分がだれに甘えていいのかわからないし、自分を守るにはどうしたらいいか、そんなことでいつも揺れ動いていたんだと思います。それは当然の本能とでもいうことなのでしょう。実際に施設で触れ合って交流しているときと、家にきたときとはまた全然違うんです。だから、施設の中ではある程度安定はしているんですね。とても周りに気を遣って自分を保身してきた分、自分らしさを発揮できるようなそういう環境の中で少しずつその良さを育んできているのじゃないかなと思っています。

まだまだこの先どうなるかわからないですけど、来てくれて良かったなと思います。ずっと施設にいたらこんな体験はしないで、ずっと生きていくというのも今ではとても想像できないぐらいです。近所の人みんなHちゃんの事情は知っていて、よく声をかけてくれて、本人も突っ込んでだっこされに行くのではなく、「こんにちは」と普通にあいさつができるような、そういう自然な育ちをしてきています。本人がそもそも持っている力がすごかったのだらうと思います。蓄えられてきたものが、今、徐々に外に向かって発揮されてきているんじゃないかなと思っています。

今Yちゃんが小学校に行っているの、（あと3年もあるのに）Hちゃんはもう小学校に行きたいみたいです。いい刺激を受け育ち合っていくことなのでしょう。これからの成長も楽しみに思っております。

19 インタビューに答えて～シンポジウム形式で行われ

里子さんのお話を、質問形式でまとめました～

【養育家庭A】

【元里子B】

《Q1》養育家庭になった動機を聞かせてください。

【養育家庭A】6年前になると思いますが、テレビで養育家庭のドラマを見て知りました。子供のためにとかいう格好いいものではなくて、ただ実子がいなかったので、子育てをしてみたいということで登録いたしました。そのころは夢いっぱい、もうやりたくて仕方がないという気持ちだけでした。

《Q2》受託した子どもたちの状況や、家庭の様子などを教えてください。

【養育家庭A】小学校4年生と小学校1年生の男の子2人を今養育しています。2人とも仲がよくて、いつも大笑いしながらよく遊んでいます。最近はずごい口げんかもするようになりました。上の子は料理が好きで一緒に台所にも立ってくれますし、下の子もよくお手伝いをしてくれます。うちは猫を4匹飼っていますので、毎日大変にぎやかで、休みの日にはよく出かけて、今は楽しく生活を送っています。

《Q3》元里子のBさんは幼児期に委託されましたが、その時のことを覚えていますか。【元里子B】2歳半のときに乳児院から養育家庭の中に入りました。そのときはまだ2歳半なので、全く覚えていません。なので、ちょっと記憶があるときには、今日の前にいるのがお父さんとお母さんなんだなという形で、7人家族で家の中でわいわいがやがやと普通の生活をしていました。現在は7人家族で、4人兄弟の上の2人の姉は実子です。下の2人、僕と兄が別々の乳児院から来た里子です。

《Q4》Aさんは養育家庭を始めてご親戚のつき合いとか、お子さんが来たことで何か変わったことはありますか。

【養育家庭A】変わったことはありませんでした。ただ毎日楽しくなったという印象で、困ったことも特にはありません。親戚は複雑な気持ちだったと思うんですけども、子育ては大変よというような感じのことは言われましたけれども、すぐに仲良くしてくれましたし、楽しくやっています。



《Q5》Bさんは養育家庭で生活して、自立までに実際に困ったことは具体的にはどんなことがありましたか。

【元里子B】

僕も元里子という立場で小学校、中学校、高校、そして今大学生になっているんですけども、里子として困ったことというのは特になかったです。

というのも、学校に行っているときは通称名として里親の名字を使っていたので学校の友達と会っても、普通の家族だなと見てくれていて、友達には自分が里子であるとか養育家庭で暮らしていることは言っていません。ただ1回、小学校の2年生か3年生ぐらいのときに遠足で健康保険証を出してくれと学校に言われて持っていったときに、ちらっと友達に戸籍名を見られてしまったことがあって、「あれ、名前違うよね」と言われたことはありますが、当時はやんちゃだったので、いじめられるということにはなかったです。小さいころはそういった形で通称名を使うことを学校の中で認めていただいて、それを高校までやってきました。それ以降、大学生になってからは本籍の名前を使って生活しています。

《Q6》真実告知（実親ではないことを里子に伝えること）はどのようにされましたか？

【元里子B】後から父に聞いた話ですが、父と一緒に風呂に入っているときに、「実はね、血はつながっていないけれども私たちは家族で、これからも家族だよ」と最初の真実告知を受けたと聞いています。4歳とか5歳ぐらいの時だったので、「ああ、そうなんだ」とぼんやりとした気持ちで受け取っていたのですが、里親さんもそれを何回か繰り返して話してくれたので、子供なりにそれを吸収しようとして、気づいたころには、血はつながっていないけれども家族なんだということは認識していました。

【養育家庭A】我が家の場合は、上の子は5歳のときに交流が始まりましてうちに来たものですから、もう最初からわかっていました。下の子は3歳で来ましたが、やっぱりこれは忘れないように早いほうがいいのかなと思って、おうちに来たときはこうだったんだよとか、そのときの話をしました。ただ、2人とも今はまだどこまで理解しているのかということではちょっとわからないところですが、聞いてはこないもので、もう少し大きくなって、思春期とかを迎えるときなどにまた少しずつ話をしていかなければいけないかなとは思っています。

《Q7》元里子Bさんはお兄さんも里子ということですが2人で自分たちのことについてはなしたりしたことはありましたか。

【元里子B】 兄と自分たちのことについては、これは多分、今から5年とか10年後ぐらいの話になりそうです。今のところは全然ないです。多分、お互いちょっとは気にしている部分でもあるし、敏感なところでもあるから、お互いの距離を図っているという形で、お互いの実親についてだとか、里親、養育家庭についていろいろ話したいこともあるんですけども、今はしていませんね。

《最後に、伝えたいことはありますか？》

【元里子B】 そうですね。2歳半から18歳の措置解除のときで養育家庭の制度自体は終了しています。でも、18歳になっても19歳になっても20歳になっても家族であることは変わらないと思っています。というのも、やっぱり里親さんがずっと家族だよ、死ぬまで家族なんだよと言ってくれているのがすごく心の支えになっていて、自分には帰ってくる場所があるんだな、自分のいていい場所というのがあるんだなと思えているのがすごく自分の中で安心につながります。なので、措置解除のときに、ほんとうに個人的にはあまり心配とか悩みとかはありませんでした。

もちろん18歳のときで制度も終わりますが、今は時代的に18歳で自立というのは難しいのかなというのは感じます。なので、その子供が思いだけでも帰ってこられるような場所を用意してあげられればすごくうれしいですね。そうすれば1人でも自立してやっていくこともできると思っています。

【養育家庭A】 子供が来てからは毎日の生活がほんとうにきらきらと輝き出したようで、子供も家庭に慣れてきてお母さんと呼んでくれたときはほんとうにうれしくて、幼稚園の先生に「この子の夢わかりますか」と聞かれて、「何ですか」と聞いたら、「お金をためてお母さんにプレゼントをすることですよ」と聞かされたときは、もうほんとうにうれしかったです。今は子供の成長を見るのが本当に楽しくて、幸せや喜びももらっています。本当に子供のために、1人でも多くの子供たちが温かい家庭で生活できるように皆さんと一緒に頑張っていけるようになればいいと思います。



平成 22 年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	講演会 講師名	担当児童 相談所	参加人数				合計
				養育家庭・ フレッドホーム	区市町村	民生・ 児童委員	一般・ その他	
9月17日	多摩市子育て総合センター		多摩	0	7	0	20	27
9月28日	文京シビックセンター 21 階会議室		センター	2	8	3	25	38
9月28日	昭島市児童センターぱれっと 2 階集会室		立川	2	9	4	3	18
10月4日	八王子市クリエイティブホール 5F		八王子	15	17	5	74	111
10月7日	日野市役所 505 会議室		八王子	7	15	8	26	56
10月8日	清瀬市児童センター会議室		小平	1	4	6	12	23
10月8日	足立区こども家庭支援センター別館2階地域活動室1		足立	5	9	4	10	28
10月9日	国分寺Lホール		小平	4	1	0	22	27
10月15日	北とぴあ		北	0	0	2	28	30
10月19日	福生市子ども応援館 1 階子育て地域連携室		立川	2	17	2	9	30
10月21日	墨田区役所 131 会議室		墨田	2	21	5	7	35
10月21日	調布市文化会館たづくり 8 階映像シアター		多摩	1	28	0	7	36
10月23日	狛江市中央公民館		世田谷	3	1	2	9	15
10月24日	中央区立教育センター視聴覚ホール		センター	3	5	1	36	45
10月25日	三鷹産業プラザ		杉並	3	10	0	21	34
10月26日	渋谷区役所地下 A 会議室		センター	2	4	6	15	27
10月28日	小平市中央公民館視聴覚室		小平	4	0	1	13	18
10月28日	武蔵村山市民総合センター 3 階会議室		小平	2	8	8	2	20
10月28日	立川女性総合センター・アイム 5 階第 3 学習室		立川	6	15	4	12	37
10月29日	武蔵野市中央コミュニティーセンター		杉並	3	5	1	23	32
11月4日	アクロス荒川		北	2	8	8	25	43
11月4日	西東京市住吉会館ルピナス		小平	2	1	26	10	39
11月4日	羽村市役所本庁 4 階大会議室		立川	2	15	10	14	41
11月5日	台東区役所 10 階会議室		センター	1	5	1	34	41
11月6日	品川区中小企業センター 2 階大講義室		品川	2	10	35	19	66
11月8日	町田市民フォーラムホール		八王子	11	17	8	117	153
11月9日	瑞穂町子ども家庭支援センター「ひばり」		立川	2	8	1	6	17
11月10日	葛飾区男女平等推進センター多目的ホール		足立	7	14	1	13	35
11月11日	東久留米市役所1階市民プラザ		小平	2	2	5	8	17
11月11日	青梅市役所 2 階会議室		立川	2	19	13	10	44
11月12日	板橋区立グリーンホール		北	1	0	4	31	36
11月12日	東大和市子ども家庭支援センター地域活動室		小平	7	0	0	4	11
11月13日	目黒区総合庁舎 2 階大会議室		品川	5	2	15	9	31
11月13日	稲城市地域振興プラザ 4 階		多摩	0	9	2	15	26
11月16日	大久保地域センター		センター	1	7	38	22	68
11月16日	あきる野市役所 5 階 503 会議室		立川	6	11	1	15	33
11月18日	子ども家庭支援センター「たち」		多摩	4	16	13	4	37
11月20日	南砂子ども家庭支援センター集会室		墨田	4	8	2	17	31
11月24日	豊島区民センター音楽室		センター	4	19	40	24	87
11月25日	東村山市役所市民センター		小平	6	1	8	27	42
11月26日	中野区勤労福祉会館		杉並	2	5	0	46	53
11月27日	大田区役所調布地域庁舎		品川	4	4	26	6	40
11月27日	あんさんぶる荻窪		杉並	3	3	2	32	40
11月27日	男女共同参画センターらぶらす		世田谷	2	0	24	28	54
11月30日	小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		小平	6	1	3	11	21
12月5日	港区麻布区民センター		センター	3	7	11	130	151
12月6日	練馬区役所 20 階交流会場		センター	2	5	2	31	40
12月6日	国立市役所 3 階第 1・2 会議室		立川	4	11	0	13	28
12月10日	総合文化センター研修室		墨田	2	10	31	30	73
3月11日	多摩市子育て総合センター		多摩	1	10	0	10	21
合 計				167	412	392	1135	2,106

平成 22 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	9/17 多摩	9/28 文京	9/28 昭島	10/4 八王子	10/7 日野	10/8 清瀬	10/8 足立	10/9 国分寺	10/15 北	10/19 福生	10/21 墨田	10/21 調布	10/23 狛江	10/24 中央	10/25 三鷹	10/26 渋谷
年齢 ~ 20 代	0	1	2	34	9	0	0	0	0	2	0	4	2	4	2	0
30 代	2	6	1	15	4	0	0	1	4	3	0	2	1	4	3	1
40 代	5	8	1	7	3	3	5	10	10	5	2	11	4	6	8	2
50 代	5	6	4	15	9	8	4	4	3	6	3	2	4	2	3	3
60 代~	4	3	2	10	11	9	3	4	11	2	3	1	3	4	0	5
不明・無回答	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0
性別 男性	0	10	3	15	6	3	2	4	2	1	3	7	4	7	3	1
女性	16	12	7	66	26	16	10	13	26	17	5	13	9	13	14	10
不明・無回答	0	2	0	0	4	4	1	2	0	0	0	0	2	0	1	0
所属 養育家庭	0	0	0	6	4	0	3	2	1	0	0	1	2	2	1	0
フレンドホーム	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0
都職員	0	5	1	2	2	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0
区市町村職員	0	8	2	6	1	0	0	1	0	3	2	7	1	0	8	2
民生児童委員	0	1	0	1	1	5	1	0	2	0	3	0	2	1	0	4
主任児童委員	0	2	4	3	7	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	2
学生	1	0	0	43	5	0	0	0	0	0	0	3	0	4	0	0
一般	10	7	3	16	13	8	4	11	14	9	3	5	7	9	8	3
その他	4	1	0	4	2	4	2	4	9	2	0	3	1	0	0	0
不明・無回答	0	0	0	0	1	5	1	1	1	1	0	0	0	2	1	0
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																
区報・市報で	7	4	6	13	9	6	2	3	3	5	2	3	3	1	8	5
都報で	2	1	0	6	5	0	4	6	9	0	0	2	6	3	0	0
ポスターで	0	1	1	4	2	0	1	2	2	2	0	1	2	2	1	0
チラシで	0	5	2	15	11	4	3	2	7	4	1	4	5	6	5	4
インターネットで	3	0	0	1	0	0	0	4	1	0	1	0	1	5	0	0
知人に勧められて	1	0	0	9	9	6	0	1	3	0	2	4	0	3	0	0
過去に参加	0	0	2	10	10	4	4	2	4	5	1	1	2	1	3	1
問い合わせた	0	1	0	4	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1
その他	4	12	0	36	7	7	4	3	8	5	2	5	3	1	0	2
不明・無回答	1	1	1	2	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																
養育家庭になりたいと思っていたから	1	4	1	4	5	0	1	4	4	5	0	0	2	8	2	2
養育家庭制度に興味・関心があつたから	3	8	4	13	8	7	4	12	13	11	2	8	7	8	9	4
子育てに関わる話が聞けると思ったから	8	2	3	16	11	8	4	5	14	1	3	2	1	1	2	2
仕事や学問などの参考にするため	7	8	2	39	9	4	3	4	6	5	2	10	4	3	6	2
その他	3	5	1	17	3	1	1	1	1	0	0	1	2	1	0	2
不明・無回答	1	2	1	1	0	3	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																
とても良かった	11	12	8	49	12	15	5	16	13	14	2	13	10	9	10	10
良かった	5	11	2	21	16	5	3	2	10	2	5	7	2	7	8	1
普通	0	1	0	4	2	0	1	0	1	0	0	0	0	4	0	0
あまり良くなかった	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	0	0	0	5	6	3	4	1	4	2	1	0	3	0	0	0
感想	13	6	7	45	25	12	7	6	13	10	3	14	8	6	8	7
アンケート回答	16	24	10	81	36	23	13	19	28	18	8	20	15	20	18	11
参加者総数	27	38	18	111	56	23	28	27	30	30	35	36	15	45	34	27

平成 22 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/28 小平	10/28 武蔵村山	10/28 立川	10/29 武蔵野	11/4 荒川	11/4 西東京	11/4 羽村	11/5 台東	11/6 品川	11/8 町田	11/9 瑞穂	11/10 葛飾	11/11 東久留米	11/11 青梅	11/12 板橋	11/12 東大和	11/13 目黒	11/13 稲城
年齢 ~ 20 代	3	0	4	1	2	1	2	2	1	43	2	3	0	1	9	1	0	4
30 代	5	0	4	3	1	1	2	2	6	6	0	2	0	5	5	1	5	1
40 代	4	0	4	2	12	6	3	1	7	12	0	10	2	3	3	1	5	6
50 代	3	5	2	3	5	7	6	4	18	8	2	4	2	7	3	2	6	1
60 代~	0	5	5	0	13	17	9	17	27	5	1	1	5	10	10	2	15	2
不明・無回答	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
性別 男性	2	1	5	0	0	6	1	10	12	16	1	3	2	9	5	1	7	6
女性	13	9	14	10	34	25	22	15	47	59	4	16	7	17	24	6	24	8
不明・無回答	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0
所属 養育家庭	2	0	4	0	0	1	0	0	0	3	0	4	0	0	0	3	4	0
フレンドホーム	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0
都職員	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	2	0	3	0	0	2	1
区市町村職員	0	2	0	0	8	0	1	1	6	5	0	0	0	3	0	0	0	4
民生児童委員	0	6	3	0	0	23	8	1	30	2	1	0	5	9	4	0	8	1
主任児童委員	1	1	1	1	3	2	1	0	6	1	0	1	0	3	0	0	7	0
学生	3	0	2	0	1	0	1	1	0	41	2	2	0	0	8	1	0	3
一般	9	1	5	6	14	5	8	15	13	8	2	10	3	6	13	3	9	4
その他	0	0	3	1	7	1	3	2	2	13	0	1	1	2	3	0	0	0
不明・無回答	0	0	0	0	1	0	0	6	0	1	0	0		0	1	0	0	1
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	4	7	5	4	5	4	10	6	15	11	0	6	2	10	5	0	13	7
都報で	1	0	2	1	1	1	0	4	5	0	0	3	1	1	0	0	0	1
ポスターで	0	2	0	1	1	7	0	3	5	2	0	0	1	3	1	0	2	1
チラシで	7	1	8	2	7	5	9	6	12	22	0	6	3	8	6	2	12	5
インターネットで	1	0	0	1	0	1	1	0	3	0	0	1	0	0	2	0	2	1
知人に勧められて	1	0	1	0	9	1	3	1	4	5	1	4	1	1	6	1	3	1
過去に参加	2	1	1	1	0	10	4	0	15	15	2	3	1	5	6	2	10	1
問い合わせた	2	1	0	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	2	0	4	0
その他	3	0	2	1	10	5	0	2	14	31	3	2	2	5	9	1	0	1
不明・無回答	0	0	1	0	4	0	0	3	0	0	0	2	0	1	1	1	0	0
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと思っていたから	4	0	5	0	1	1	1	0	6	2	0	1	1	2	2	2	5	1
養育家庭制度に興味・関心があつたから	6	6	9	5	14	10	7	7	27	20	2	8	4	14	15	1	13	9
子育てに関わる話が聞けると思ったから	1	6	2	3	8	8	7	6	17	12	1	3	0	4	7	1	8	4
仕事や学問などの参考にするため	3	3	6	1	7	14	8	5	9	34	3	3	3	7	8	2	5	7
その他	4	0	2	1	8	2	2	5	8	13	0	4	1	1	0	0	3	0
不明・無回答	0	0	1	1	5	0	0	3	0	2	0	3	0	0	4	1	0	0
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	11	9	15	3	22	26	17	6	34	35	4	7	7	15	19	6	20	8
良かった	2	0	3	5	9	6	6	12	16	29	1	9	2	10	10	0	10	2
普通	0	0	1	1	0	0	0	7	1	7	0	1	0	1	0	0	0	1
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	2	1	0	1	3	0	0	1	8	3	0	3	0	0	2	1	1	3
感想	9	4	6	8	21	16	15	4	13	32	4	8	3	14	18	3	10	9
アンケート回答	15	10	19	10	34	32	23	26	59	75	5	20	9	26	31	7	31	14
参加者総数	18	20	37	32	43	39	41	41	66	153	17	35	17	44	36	11	31	26

平成 22 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/16 新宿	11/16 あきる野	11/18 府中	11/20 江東	11/24 豊島	11/25 東村山	11/26 中野	11/27 大田	11/27 杉並	11/27 世田谷	11/30 小金井	12/5 港	12/6 練馬	12/6 国立	12/10 江戸川	3/11 多摩	総計
年齢 ～ 20 代	0	2	1	1	3	2	3	0	4	13	5	27	2	3	3	1	209
30 代	2	4	4	6	5	2	18	1	4	1	4	15	6	3	1	1	173
40 代	6	7	2	4	8	7	12	2	8	11	0	20	7	4	4	4	277
50 代	8	4	9	3	8	5	2	9	8	13	4	19	6	1	3	3	274
60 代～	26	5	8	6	30	7	2	23	4	15	2	22	7	1	1	0	378
不明・無回答	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	18
性別 男性	5	4	3	4	6	0	2	9	10	6	3	14	5	2	3	1	235
女性	37	18	21	16	47	22	35	26	18	44	12	85	23	10	9	8	1,058
不明・無回答	1	0	0	1	2	2	0	0	0	4	0	5	0	0	0	0	36
所属 養育家庭	0	3	1	1	1	2	1	4	3	2	3	1	0	2	1	0	68
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	11
都職員	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	36
区市町村職員	2	2	0	1	5	1	1	3	0	0	0	8	2	1	0	1	98
民生児童委員	25	0	13	2	32	6	0	19	1	20	0	12	2	0	0	0	254
主任児童委員	7	1	0	0	1	1	0	2	1	4	1	1	0	0	0	0	70
学生	0	2	0	0	3	1	0	0	2	9	1	20	0	3	0	1	163
一般	2	12	6	11	9	8	26	5	13	17	8	48	18	3	10	6	466
その他	7	1	1	4	2	5	9	1	8	0	0	10	3	2	0	0	128
不明・無回答	0	1	1	1	2	0	0	0	0	2	0	3	2	0	0	0	35
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																	
区報・市報で	10	4	6	3	11	5	11	13	8	6	2	22	13	1	7	4	320
都報で	3	0	0	1	2	1	0	0	0	2	0	7	1	0	1	1	84
ポスターで	1	2	1	1	3	0	4	2	0	7	1	13	1	0	0	0	86
チラシで	7	8	5	4	15	7	2	13	7	12	5	19	5	6	1	0	315
インターネットで	2	0	1	5	7	1	3	1	3	3	3	4	5	1	3	3	74
知人に勧められて	1	4	2	0	7	3	11	2	6	6	3	27	4	3	0	0	160
過去に参加	9	3	4	2	15	5	0	7	0	7	0	6	1	2	0	1	191
問い合わせた	0	0	0	0	2	0	1	1	1	3	1	0	0	0	0	0	32
その他	17	3	6	3	12	4	5	4	3	20	1	22	4	2	1	1	298
不明・無回答	2	3	2	1	4	3	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	43
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																	
養育家庭になりたい と思っていたから	1	4	2	5	3	2	2	4	5	6	1	9	8	1	1	1	132
養育家庭制度 に興味・関心が あったから	14	9	9	9	21	7	9	13	10	32	8	30	17	6	7	6	505
子育てに関わる 話が聞けると思っ たから	12	2	6	4	19	10	19	9	4	8	2	40	7	5	2	0	330
仕事や学問な どの参考にする ため	12	6	5	5	16	4	4	13	4	15	6	41	6	6	2	3	390
その他	6	3	4	3	10	4	1	3	2	5	1	12	4	0	0	1	152
不明・無回答	4	1	0	1	1	2	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	45
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																	
とても良かった	27	16	15	13	35	17	18	25	17	35	12	50	14	8	7	7	789
良かった	11	4	5	6	16	4	16	9	8	13	2	38	12	2	5	1	391
普通	1	1	1	0	1	0	2	1	0	1	0	5	0	0	0	0	46
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
不明・無回答	4	1	3	2	3	3	1	0	3	5	1	9	2	1	0	1	97
感想	25	10	16	15	34	13	20	10	15	21	7	31	15	9	8	8	644
アンケート回答	43	22	24	21	55	24	37	35	28	54	15	104	28	12	12	9	1,329
参加者総数	68	33	37	31	87	42	53	40	40	54	21	151	40	28	73	21	2,106

**養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのでき
ない子供たちを養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活
し、養育していただく里親制度です。**

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格はあるの？

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。
配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、
養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ お預かりいただく子供は？

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おむね 18 歳までの子供です。

★ お預かりいただく期間は？

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

★ 養育に係る費用は？

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子供の養育を一時的に休息できます。
- ほっとファミリーどうしが集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>

